明治三十四年八月二十日發行（明治二十年十一月本會創立）
第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日）　每月一回十五日發行　內務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百四拾壹號

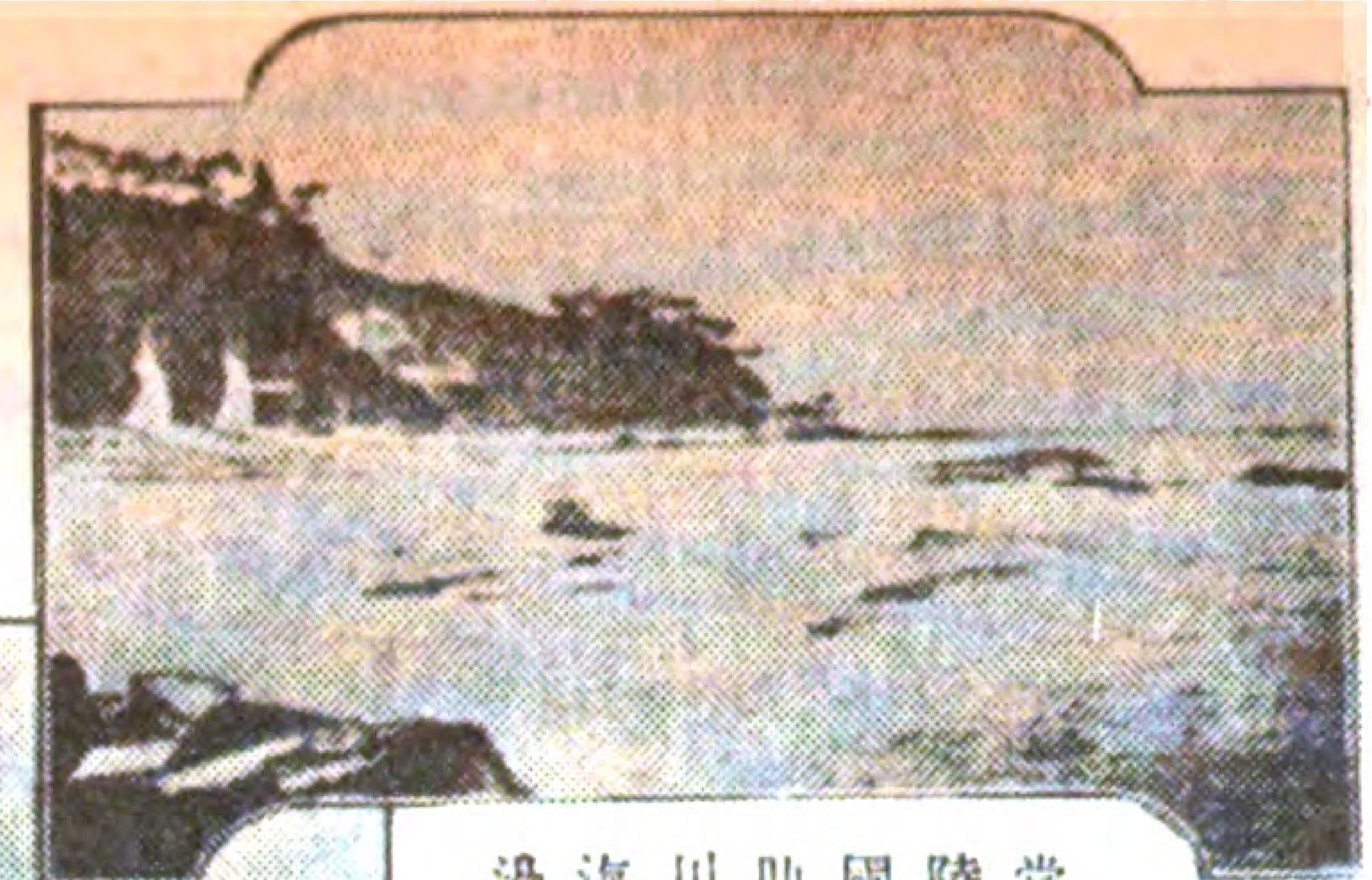
私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百四十一號　目次



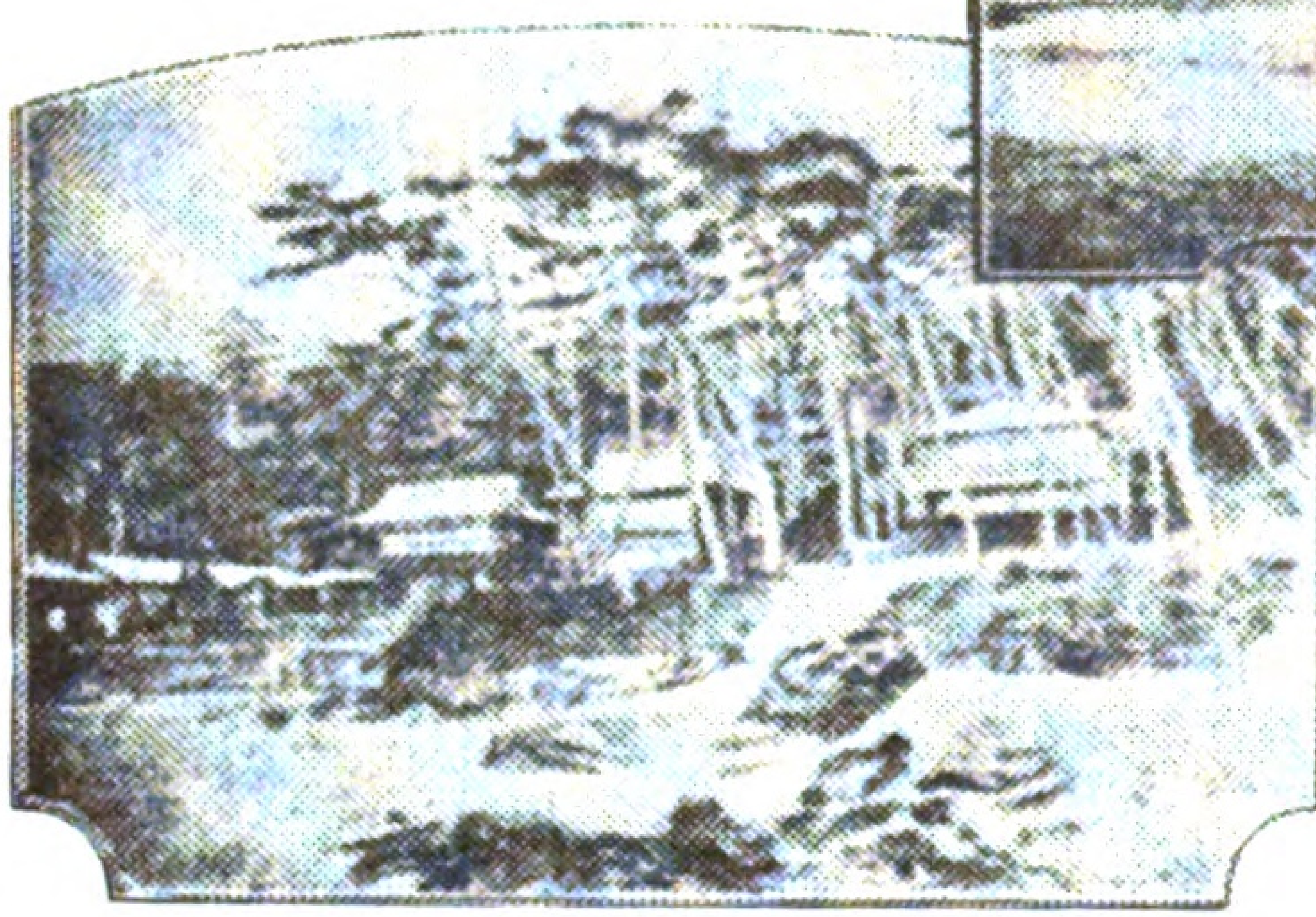
常陸國天妃山海邊



常陸國助川海邊



磐城國勿來海邊



常陸國大洗(大洗神社近傍)



常陸國平潟港

婦人衞生雜誌第百四十一號
（明治三十四年八月十五日發行）

講演

狂犬病に就て（本會講演）

醫學博士　栗本東明君述
佃速記事務所員速記

今日私が此婦人衞生會に於きまして、皆樣にお話申上げまするのは誠に私に取りまして光榮のことゝ存じます、それで今日は「狂犬病に就て」と云ふ題でお話を申上げる積りでありますが、狂犬病と云ひまするのは一ッの動物に發生しまする病でございまして、それが人に傳染しまして、それから人躰に酷い病が起つて來るのであるのです、此狂犬病に就きまして今日其豫防法と、それから治療法と此二ッに就てお話しやうと考へるのであります、

元來狂犬病と云ふ名稱に就きまして一寸お話致しますると、此の名稱が即ち意味して居るやうに狂犬、狂犬と言ひますのは病氣に罹つた犬、無暗に人に噛付くやうな風になつた犬を云ふのでありまするが、詰る所此の病氣に罹りました、犬が酷く暴れ廻りまして、さうして人間を噛む、それから人間に毒が傳染しまして、人間も矢張そんな風な病に罹るのだから之を狂犬病と言つたのであるのです、或は又恐水病と云ふ名稱もありまするが、此病ひに罹りました所の人は酷く水を呑むことを嫌ふ、詰り水を恐れるのでありますからして、恐水病と云ふ名稱を附けて居るのである、併ながら動物に此の病氣が發生しましても決して水を恐れない、水を恐れない、水を恐れないからして動物には恐水病と云ふ名稱を附けては都合が惡いのでありまする故に動物ならば狂犬病と言つた方が宜いのであるのです、併し

此の病氣は決して犬にばかり限つた病氣でありませぬで、狂犬から嚙まれますると人間にも病氣が傳染しまするし、それから他の動物にも矢張り傳染するのである、デ動物からして動物に傳染するのでありまして、乃ち之を動物性の傳染病と云ふものに數へ込んで居るのである、外の動物と申しましても種々ありまするか、猫にも此狂犬病を發することがありまするし、或は牛馬又は羊のやうなものにも發しまするし、或は猿、鼠又は豚のやうなものにも發生しまするし、或は鳩、鷄と云ふやうなものにも此病氣が起りまする、それから露西亞に於きましては狼に此病ひが出來まして酷く人を損害したと云ふこともある、亞比利加邊で今まで隨分見たことがあるのである、ママさう云ふ風に種々の動物に發しまするが、兎に角此病氣の本元が犬から起るのでありますからして名稱を狂犬病と附けて居るのである、デ、

どうして此病氣が人間に傳染するのであるかと言ひますと、是は動物即ち犬に嚙まれまするると、其疵から毒が這入つて行くのである、人間の皮膚の疵が出來ますと其疵の處に唾液が這入つて行く、即ち唾が這入つて行くのであります、此唾の中に毒が含んで居りますからそれが組織の中に這入つて行く、丁度種痘を皮膚の中に植えまするとそれで疱瘡が出來ると云ふやうな工合に、矢張り唾の中に這入つて居る毒が人間の皮膚に種痘のやうに植はつて行くのである、さうして其毒が皮膚から段々神經の中に這入りまして、神經から漸々傳つて脊髓の方に行き、終には上へ登つて腦の方に行く、さうすると酷い病氣が起つて來まして、丁度動物が此の病氣に罹つて狂ひ廻るやうに、人間も其通りの恐ろしい容躰を呈して遂に死ぬと云ふやうなことになつて來るのである、詰る所疵の所に唾液即ち唾が這入つて病氣が傳染す

ると云ふことになつて來るのである、併ながら此病毒はさう急には人間の身體に廻つて行くものではない、外の動物に噛まれますと其病毒が直ぐ廻るやつがある、譬へば琉球の方に飯匙倩と云ふ蛇が居りまするが、此飯匙倩に噛まれると五六時間の内に全身に毒が廻つて死んで仕舞ふ、或は蝮に噛まれると毒が忽ちに廻つて僅か二十四時間以内に人が死ぬと云ふやうなことになりまするが、併し狂犬病の方に於きましてはさうでない、大抵は狂犬に噛まれてから早くつて三十日間位ゐで病氣が起つて來る、遲いのになりますと五十日或は百日も經つて始めて狂犬病が起つて來るのであります、それでありますから人が狂犬に噛まれても餘り氣にしないのみならず恐れない、殆ど打捨つて居ると云ふことからして遂に此の病氣が起つて自分の命を失ふと云ふことが往々出來て來るのである、デ輕い疵でございますると犬に噛まれた位では人が何とも思はない、醫者にも見せない、自分の家族の者にも話さぬで置くと云ふやうな怠りがあつて終に命を失ふと云ふことは是迄屢々見ることである、又醫者に診せませぬからして醫者の方で氣を注けてやる譯にも行かぬので遂に過ちを來たすことがある、それで明治廿六年に長崎縣に於て此病氣が起つたことがありまする其時丁度私は長崎に居つたものでありますから流行の土地に行つて段々調べたことがある、デ調べて見ますると隨分狂犬に噛まれて死んで居る者もありまするけれども充分に分つて居らない、ソコで私が村役場に行きまして段々死亡證と言つて人が死にまするど村役場に屆けます、病氣はなんであると云ふことを書附けて出しますが、其死亡證と云ふものを能く調べて見ますると、或は腦病とか腦充血とか云ふもので死んで居ると云ふやうな死亡證が出て居りました、ソコでど

うも是は怪しい、或は此奴狂犬病であつたのかも知れぬと思ひましたから、其家族を呼出して死んだ病人はどんな容躰を呈して死んだのであるか、或は前に狂犬に嚙まれたことはないかと言つて段々聞いて見まするとゝ果して前に狂犬に嚙まれて居る、或は三十日前に嚙まれて居るとか五十日前に嚙まれて居ると云ふことがあつたのである、ソコで段々病氣の容躰を聽いて見ますと全く狂犬病に相違ない、それが爲めに死んで居るのである、併ながら是は患者の方でも余り氣に留めずして、狂犬に嚙まれたことを忘れて居つて醫者にそれを話さぬから、醫者の方でも狂犬病と云ふことに氣が附かぬで何だか腦病のやうな容躰で死んだからして腦の病氣である、或は單に腦病であるだらうと云ふことで濟むやうな譯で、此等は全く注意を怠つて居つたから自然治療も不完全になり、遂に命を失ふと云ふやうなことになつたものと考へるのでございます、それでありますからして兎に角此狂犬に嚙まれて……狂犬ばかりではありませぬ、總て市中の犬に嚙まれた時に於きましては、決して之を麁末にして置てはならぬと云ふことを頭に確つかり入れて置かなければならぬものである、一旦治療を怠つて發病しますると、ナカ〳〵容易に癒ることの出來ぬ病である、總て此傳染病に於きましてはドンな酷い傳染病でも、例へば世間の人が最も恐れる所の「ペスト」の如き、或は虎列剌の如き斯う云ふ酷い傳染病でございましても、病氣に百人罹つて百人皆死ぬと云ふことはないのである、百人病氣に罹りましても大抵九十人位死ぬのが最も多いのである、餘の十人は助かると云ふやうなことになつて居る、併ながら此狂犬病に於きましてはナカ〳〵さうではありませぬ、若しも狂犬病が發した時に於きましては、百人に發しますれば其百人皆

死んで仕舞ふのである、是は今迄歐羅巴に於てもさう云ふ實驗でありまするし、私が長崎縣に於きまして實驗しましたのも皆其のやうであります、私の見た所の患者は一人として助かつた者はないと云ふやうな譯で實に恐ろしい病ひと言つて宜い、斯う云ふ恐ろしい病氣が西洋でも日本でも何時の時代から起つたものであるか、是は西洋では昔から起つたのでございまして、彼のヒポクラテースと云ふ西洋の醫聖が居りまする、其頃の時代から此の病氣があつたやうである、それから今日まで西洋にも此病氣が流行つて居る、日本に於きましても隨分昔から此の病氣があつたものでありますが、併ながらいつ頃の時代から確かに出來たと云ふ確かりしたことは分つて居らない、兎に角昔の本にも此狂犬に噛まれた者の病氣の模様が書いてあるから、人が恐れて居つたに相違ない、又此病氣があつたにも相違ない、デ近頃になりましては東京近傍にも段々此病氣が出て來まして人も多少は注意するやうになつて參りました、先づ御維新後に於きまして東京に出來ましたのは明治三年である、其後明治十九年に於きまして麻布に此の病氣が出來ました、又其次には明治二十年、是は多くの人が能く記憶して居るやうな話も聽いて居りますが、牛込に住つて居りました或る陸軍の士官の飼犬が狂犬病に罹りまして、其家の令孃を噛み、それから乘馬を噛んだと云ふことである、それで治療を麁末にして居つたかどうか知りませんけれども、其後三十日ばかり過ぎて此令孃の方に病氣が起つて遂に斃れ、それから後に乘馬にも病氣が起つて遂に狂犬病の爲めに斃れたと云ふことがあるんである、それから又時々東京では彼處此處にありましたが、先づさう酷ひこともなかつたやうでありましたが、明治三十一年に於きましては澁谷村に狂犬が出

來まして、大分人を嚙んでそれが爲めに發病して死んだ者も多少はあつたやうである、兎に角此の東京府或は此近傍に於きましては、狂犬病毒が常に存在して居るやうでありますからナカ〳〵油斷はならぬことと考へるのである、デ前申上げましたやうに、此病氣が狂犬に嚙まれて直ぐに起ると云ふものではない、即ち潜伏期と云ふものが大分長いからして

：潜伏期が長いと云ひまするのは、狂犬に嚙まれてから發病するまでの間が大分時があると云ふことである、時があるからしてソレで此の病氣が起つたとした所が、前の狂犬に嚙まれたものとは少しも關係がないやうに考へて居ると云ふのが一ツの過ちでありまする、併ながら此潜伏期の長いと云ふこと、即ち狂犬に嚙まれてから病氣の起つて來る迄の間の時が大分掛かると云ふことが、今日此病氣を治療するに大層利益になることとである、此事は先に行つて治療の方でお話することに致しますが、兎に角潜伏期の長いと云ふのが治療上に非常な利益になることである

此の如き恐るべき病氣を豫防しまするにはどうすれば宜いか、ソレは色々豫防の箇條があるが、先づ第一に豫防法を行ふべきものは、野犬即ち飼主のない犬でありまするが、之を皆な絕やして仕舞ふと云ふことが極く必要である、デ東京で見ますると、此野犬と云ふものゝ多いことが誠に夥しいやうに見えるのである、私共の邸内にも何處の犬か分らん犬が三疋も五疋もやつて來ると云ふやうな風でありまして、マアソンな風でありまするから此東京市内には幾万の野犬が居るかも知れないのである、是等は皆な絕やして仕舞ふことが必要である、詰り野犬を撲殺して仕舞ふ、デ東京市內にありまして斯の如く野犬が多いのでありますからして、田舍の町に於きま

してはモット不取締だらうと考へます、斯う云ふ野犬の多い所に若し一旦狂犬が出來まして、さうして他の犬に病氣が傳染するやうになつてソレから人間に傳染することになりますと、酷い猖獗を極めましてソレが爲に人間の命を失ふことが多いたらうと思ひます、故に兎に角野犬と云ふものを皆な絕やして仕舞はなければなりませぬ、歐羅巴に於きましては斯の如き主のない犬が彷徨して居ると云ふことは見たくても決して見ることが出來ない、余程能く取締が附いて居るのであります、

第二に於きましては、若し狂犬が居りましたならば必ず之を怠りなしに速かに撲殺して仕舞ふことが必要である、未だ東京などては此狂犬病の恐るべきものであると云ふことが人の頭に能く這入つて居りませぬから、之に向つての注意が不完全のやうに思ひますが、長崎縣に於きましては却て東京抔よりも能く行屆いて居るやうであります、狂犬らしいものでも居りますならば、充分に警察の方て手を廻はして直ぐに撲殺して仕舞ふと云ふことになつて居る、それでありますから兎に角狂犬がありましたならば速に之を撲殺し、或は自分の家に飼犬が居つてソレが狂犬病ででもあるだらうと云ふ疑ひがあつたならば、速に警察署に渡すとか或は獸醫の方に遣つて治療を受けさせて仕舞ふと云ふことが必要である、往々飼犬に手を嚙まれると云ふやうな危險なことがありますからして、其注意は極めて必要のことゝ思ひます、

第三には口環を嵌めると云ふこと、是が最も良い方法でありまするが、其口環を此處に持つて參りましたから一寸お目に懸けませうが斯う云ふ（此時柔軟の皮製の口環を示す）ものである、是は獨逸で拵へたものでありますが、之を犬の頭の處へ斯う云ふ風

に(口環を手の指頭に嵌めて示す)嵌めて置く、さうすると决して人を嚙むことは出來ぬのである、是は柔かな皮で拵へたもので疵も付かぬやうに極く良い工合に出來て居る、獨逸の伯林邊りに於きましてはどんな飼犬でも此の口環を嵌めない犬はないからして、狂犬に人が嚙まれると云ふやうなことは勿論ない、人が安心して通行することが出來ます、是は警察で八釜敷いので、口環を嵌めない犬が往來を彷徨して居りますると直ぐに警察で以て之を捕へて飼主に引渡す、さうして後とで罰金を取ると云ふやうな方法になつて居るのである、又さう云ふ風でありますからして獨逸に在つては飼犬が皆口環を嵌めることに慣れて居る、若し自分が外出をしたくなつて來ますと、尾を振つて主人の所に口を持つて來る、さうすると主人も氣を利かせて多分外に出たくなつたのだらうと云ふので口環を嵌めてやる、さうすると犬は悦んで外に出て行く、人家に歸つて來ると直ちに主人の所に口を持つて來る、そこで初めて口環を取つてやつて物を食ふと云ふやうな譯である、最う小さい時分からさう云ふ習慣になつて居りますから少しも口環を嵌めることを嫌はない、之に反しまして日本ではさう云ふことが更にない、長崎に於いて一時狂犬病の流行がありました際に此口環を拵へて嵌めると云ふ規則が出來ましたけれども、其口環はどうも獨逸製のやうに工合が良いものではなかつた金屬で拵へたものであるから酷い疵が口の處に出來て永く嵌めることが出來なかつたのであります、兎に角飼犬には口環を嵌めると云ふ規則を東京府で以て嚴行するやうにしたならば最も宜しいと考へるのである、若しも斯う云ふ口環を嵌めて置きますと、往來を歩く人が極く安全に通行することが出來ます日本の人は今まで狂犬病と云ふことが腦髓にないか

らして、犬に逢つても少しも怖がらない、けれども私は狂犬病に罹つて死んだ者も隨分澤山見て居りますから、向ふから犬がやつて來ると怖くつて眞直ぐに行かれぬと云ふやうな虞を懷いて居るのである、迂濶に散歩も出來ないと云ふやうな東京の有様でありますから、此口環の制と云ふものを嚴重に行つたならば最も宜からうと考へるのである、

第四に於きましては犬税、犬税と言ひまするのは西洋では犬を一疋飼ふのにも高い税を取られる、税を拂はなければ飼はれないから無闇に人が犬を飼はない、獨逸の伯林に於きましては一疋に就て二十馬克丁度日本の十圓に當りますが、どんな小さい犬でございましても一匹に就て十圓と極つて居る、さう云ふ風にしますると容易に人が詰らぬ犬を飼はない、日本のやうに臺所に餘物があるから之を食はせてやると云ふやうな詰らぬことをしない、伯林では犬を飼ふならば飼ふだけの充分食料を與へるから、決して人の家の芥溜に行つて食物を需めると云ふやうなことは致しませぬ、高い税を拂ふだけの資格のある人が飼つて置くのでございますから充分の事が出來るのであります、日本に於ても此犬税と云ふものを行つたならば濫りに人が犬を飼はないやうになるだらうと考へるのである、

斯ふ云ふ四箇條の事を充分に行ひましたならば、此狂犬病の恐るべきものをマア何ふなり斯うなり防ぐことが出來るであらう、若し又一朝發病しました所が流行にしまいと考へるのでございますが、何うも未だ日本に於きましては此事を實行することは六ケ敷いやうな有様に見えるのであります、からして之を充分に實行することが出來ぬと已を得ぬからして唯だ自分自分で以て用心をするよりほか仕方がないのである、此東京市中のやうに野犬の多い所では

自分で自分の身體を守ると云ふ心得が極く必要である、是に就きまして狂犬病を發しました所の犬の模樣を一寸お話申して置きましたならば多少御參考になるだらうと考へます

第一に狂犬病を起して居る犬は外の犬とは擧動が違ふ、極く不穩の狀を呈して居る、不穩の狀と言ひますると擧動か柔和でない、キヨト〱して居ると云ふやうな狀を呈しまして一直線に脇見をせずに走つて來るのである、さう云ふ犬は極く危險と見なければならぬのである、それからさう云ふ犬を見ますと眼の中が充血して赤くなつて居る、又顏も通常の犬とは少し變つて居りまして、何んとなく皺めて居るやうな容貌であります、一層酷いのになりますと舌を口外に出しまして、乃ち右の方が左の方に長く出しまして涎が始終流れて居る、尾抔は決して上の方に卷いては居らない何時も下の方に垂れて居る、さうして一直線に走つて來るのでありますが、さう云ふ犬がやつて來ました時には必ず之を避けると云ふことを考へて居らなければならぬのである、之を避けまするに余り狼狽しては可けない、成るたけ靜かに犬に悟られないやうに一寸脇の方に避けて居る、決して聲を出さないでジツト默つて見て居る、さうしまするとと犬が通り越してサツ〱と先きの方に行つて仕舞ふのである、若し其際に大きな聲でも發して走つて行きまするとと初めて犬が氣が附いて直ぐに噛みまするから、斯ふ云ふ時には成たけ靜かに横に三尺なり五尺なり避けて知らぬ顏をして居るのが一番宜いのでございます、と云ふのは狂犬病に罹りました犬は視力が衰へて來て目が充分に見えない、それでありますから自分の前に在る物が柱であるか或は人間であるか一向分らない、唯だ眞直に走つて行つて何んでも自分の前に見えた所のものに噛附くの

である、人間が其處に居れば直ぐに嚙附く、或は柱があれば柱に嚙附くと云ふやうな譯で決して脇に向つて嚙むと云ふことはしない性質のものである、デおりますからして成るたけ靜かにして脇の方に避けますれば、此狂犬に嚙まれると云ふことは多分避けることが出來るのである、併ながらマ、さう云ふ注意をやつて置いた所でイツ何時どんな場合に狂犬に嚙まれないとも言はれないのでございますから其時には又それ相應の心得を以て治療をしなくてはならぬのでありますが、先づ醫者の處に行く前に、或は手を嚙まれますれば其疵から血液を充分に口を以て吸出して仕舞ふ、それから其疵の所を確つかり縛つて置く、又足でも縛られる所なれば確つかり縛つて置く、是が先づ應急の手段である、さうして兎に角相當の醫者の處に行きまして治療を受ける、さうすると醫者の方でも大抵治療法を心得て居りますから相應の事をやるでありませう、デ今疵の所から口で以て血を吸出すと云ふことを御話をしましたが、さうしましたならば毒が人間の口の中に這入つて却て傳染するであらうと云ふ恐れを懷くやうなこともないとも言はれませぬが、併ながら是は決して恐れるには及ばないのである、と云ふのは人間の口の中の粘膜、即ち口中の薄皮が若しも丈夫であつたならばソレからして毒が這入ることはありませぬから、血液を充分に吸出しても少しも害はないのである、斯の如くして成るべく早く醫者の處に行つて其處を切つて貰ふとか、或は硝酸銀とか其他の腐蝕藥で燒いて仕舞ふとかすれば毒を去ることは出來ますが、併ながら是ばかりでは人間の身體に這入つた病毒が必ず取れて仕舞つたと安心は出來ない、或は未だ殘つて居るかも計られぬ、何ぜならば此病毒は肉眼では見へない者であるから、疵の中に毒が殘つて居るか

或は取れて仕舞つたか判然と區別が立ちませぬ、ダからしてそれでは決して安心することが出來ぬのである、是に向つては充分完全なる治療法を施さなくてはならぬのでありますが、其の完全なる治療法と云ふのは則ち注射療法と言つて、身體の中に液藥を注射しましてさうして療治をすると云ふ方法である此治療法は佛蘭西の有名なるパストールと云ふ人のやつた方法でありまするが、是は西暦千八百八十五年に佛蘭西でパストールと云ふ人が治療法を研究しまして、始めて人體に行ひまして非常に效の有ると云ふことになりました、今日歐羅巴各國で此治療法を行つて居るやうであります、日本に於きましては即ち明治廿六年長崎縣に狂犬病が流行しました時迄は此治療法はなかつたのである、それで明治二十六に長崎に酷い流行を來たしまして此病氣の爲に死ぬ人が澤山出來て來ましたけれども、私共其時長崎に居つて澤山の病人を診察しましたが何うしても助けることが出來なかつた、種々な藥を用ひて樣々の事をやつて見ましたけれども百人が百人皆死んで仕舞つた、それで何うかして此不幸な患者を助けてやりたいものだと考へたのであります、此患者を助けますには歐羅巴で行つて居る所のパストールの注射法是より外に良法はないのでありますからして初めて明治二十六年に私が注射法と云ふもの丶研究を始めたのである、丁度佛蘭西でパストールが研究を始めてから八年ばかり後に私が研究を始めたのでありますが、此時代に於きましては日本で未だ此注射治療法と云ふものをやつて居る人がないのでありまして私が始めまするにも非常な困難を感じたのである、と云ふのは此注射治療法の事を委しく書きました本も何にも未だ歐羅巴から來て居らない、それから又日本では此事に就て研究した人もないからして誰に

相談すると云ふことも出來なかつた、併ながら一旦思ふて始めやうとしたのを止めるも殘念と心得ましてパストールの治療法の大體の方針が略々分つて居りましたからして、其方針でやつたならば大抵は行くだらうと云ふ考へで先づやつて見たのである、即ち此狂犬の病毒を取りまして他の動物に植ゑて色々試驗をして見まして、終に注射液を拵へることが出來たのである、併し此注射液と云ふものは狂犬の病毒から拵へるのでありますからして、若しも此注射液の分量を誤つて人間の身體に注射するとそれが爲めに人間の身體に反つて病毒を植付けて、さうして病氣を起させると云ふやうな恐れがありますからして、浮つかり注射液が出來たからと言つて人間の身體に注射する譯に行かなかつたのである、デ始めは動物試驗と言ひまして兎の身體の中に度々毒を注射して見た、けれども兎には少しも害はない、格別異狀も起らないからして始めに人間に用ゆるやうになつたのでありますが、人間に注射するにも始めからして到底多量の藥液を注射する譯に行かなかつたから、極く弱い處から段々強くして行つて終に一定の治療を遣り遂げるやうになつたのである、兎に角前にお話したやうに此病氣の潛伏期が長いのを利用して今の注射治療法を行のである、それでドン〳〵一方で注射して仕舞ひますると人間の身體が其病毒に慣れて仕舞つて　縱令狂犬病毒が這入つても終には感じないやうになつて仕舞ふ、それがパストールの治療の原則である、さう云ふ風に潛伏期の長いのを利用して、弱い病毒から段々強い病毒を人間の身體に注射してさうして其病毒に慣らして仕舞ふ、例へば酒の飲めぬ人は盃で一杯飲んでも酷く醉ひますけれども、それが段々口に慣れて仕舞ひますると一合飲んでも一升飲んでも醉はぬと云ふやうに酒に

慣れて來るのである、丁度今の注射治療法もさう云ふ有樣で、始め弱い者を少しづゝ注射して行きますると、終ひには强い病毒を植えても人間の身體は其病毒に感じないと云ふやうになつて仕舞ふ、詰り其毒に慣れて仕舞ふと云ふやうになる、其方針で注射治療法と云ふものを行ふのである、斯う云ふ風にして私が愈々人體に試みまして效の有ると云ふことになりましたから、長崎に於きまして狂犬に噛まれた多くの患者を治療致しました、それから後になりましては九州の各縣、或は東京或は東京の近傍からも澤山の患者が長崎にやつて參りました、又外國人も大分やつて來ました、或は天津とか或は上海邊で狂犬に噛まれた人がやつて來ました、殊に多く來ましたのは露西亞の人であります、前に御話したやうに西伯利亞地方で狼杯から噛まれて酷い疵を持つて居る人が長崎にやつて來て治療を乞ひましたに依て、私はソレ等の人々に皆治療を施してやりましたが、頗る其成蹟が良くつて多くは助かつたのである、デ歐羅巴に於きまして此治療法を行ふ以前には、狂犬に噛まれた人が百人ありますると大抵二十人位は病氣が起つて居つたのでありますけれども此の治療法を行つてからと云ふものは百人の中一人起るか起らぬかと云ふやうなことになつたのである、マア其位に良い成蹟でありました、私に治療しましたのも寧ろ歐羅巴の成蹟よりは良い位の成蹟でありまして至極都合の好かつたのである、デ此治療法と云ふものは長崎に於きましては現に今まで持續してやつて居ります、東京に於きましては芝に傳染病研究所と云ふものがありまするが、此處で近頃から始めて居るといふことと兎に角歐羅巴の都府を廻つて見ますると特に私は留學中此狂犬病の事に就て能く注意して見て來ましたが、或は獨逸の伯林、佛蘭西の巴里、

露西亞のワルシヤウ、聖彼得堡、莫斯科其他ブタペスト此邊の處に行つて見ましても、皆完全なる治療所が設けられて於つて澤山の患者も見て參りました、日本に於きましても、殊に東京の如き大都會に於きましては是から完全なる治療所を設けて、斯の如き不幸な患者を救ふことは極く必要なことゝ考へます、尚ほ私も是から先き研究に就ては繼續してやらうと云ふ考へでありまするが、獨り東京ばかりでなく、少し大きな都會には此研究所を設けると云ことが必要と考へるのである、今日は此狂犬病の事に就て大體のお話を致した積りでありまするから是で御免を蒙ります、



浴に就て

（本會講演）

ドクトル　朝倉文三君述

「浴」吾人身躰（全部或は一部）を水中に入れ要するに第一身躰を淸潔にし第二健康を保持し第三精神を快濶になすにあり第四疾病を療するにあり彼の數時間浴中にあり數回或は數十回顔面を摩し痘痕を磨滅せしむるか如きは浴の眞正の目的にあらざるなり

「浴」に種々の種類あれとも要するに一定度の温度を有する水を以て行ふ温度の差異高低により大別して通常浴（常温浴）高低浴及冷浴の三とす

浴の仕方に付て云はゝ通常温なると冷浴或は熱浴なるとを問はず全身浴半身浴等の區別あり勿論之を病者に應用するには尚數十の區別あるも是れ浴醫の領分にして素人たる會員方の特に心得置かるゝの必要少し

又浴に用ゆる液躰の性質によりて温泉浴海水浴等の別あるも畢竟前三大別の浴を說けは一々明了となり且つ温泉海水浴の如きも温度の高低により三種中の

一つに屬すへきものなれば又た浴は特り液體を以てのみ行ふものにあらず近來科學の進歩と共に理學上の治療進歩し瓦斯浴蒸氣浴其他日光浴の如きもの續出し殊に光線浴の如きは近來「フィゼン」により諾威政府の保護の下 Kopenhagen に於いて非常に廣大なる規模を以つて光線浴療法研究所設出せられたり然し之れ矢張り諸員の熟知するの必要なければ略す

以上大別したる三種の浴は各温度を異にするを以て其の生理的效用又異れり稍深入りするの嫌ひなきにあらざるも之に就て少し悉しく述ん元來吾人は常温動物の最上級に位するものにして體温は身體の内外及部位によりて差異あるも攝氏三十五度乃至三十七度を普通とす故に浴亦た此温度を標準としたるものにして（以下悉く攝氏檢温器を用ふ）

甲　常温浴三十四度乃至三十五度

乙　高温浴三十五度以上

丙　冷浴三十四度以下

甲は吾人體温は大差異なきを以て別段體温を下降或は奪却することなく全く平温に止るなり乙は吾人體温に比して高きを以て體温を上昇せしむ之に反して丙は吾人體温に比し低きを以て體温を減却す（此の作用は液體の善温導體なる性體に由る）

之より少しく各三大別の浴の生理的效用を說きて其の取捨を述べんとす

甲　常温浴（入浴時間十五分乃至二十五分にして始終同温とす）は温の作用單に末梢神經系統にのみ作用し之より中樞神經に傳搬せらるゝとなし從て心臟及呼吸に變化を來さず温の消散高は同一時間大氣中に在りしに同し故に入浴者は全く温の作用を受けざるものなり然れとも如此き常温浴の温度境界（高低）は各人差異あり普通三十四度乃至三十五度なり

とす貧血者或は高温の氣候に慣れたる者は健康多血の者或は寒氣に身軆を鍛錬習慣したるものと其の感覺を異にするは勿論なり常温浴は皮膚作用に對して末梢神經の皮膚末器を膨脹せしむるの作用に由りて鎭經作用を營爲す如此き均等にして且つ適度なる皮膚上に對する温は全身神經系の鎭靜を持來し已存的神經興奮及ひ反射的興奮を鎭靜す故に常温浴は健全的に全身營養を容易ならしむるに大效あり故に老人及病者等に對しては軆力を保持せしめ以て生活機能を永續せしむるの好果を呈す加之ならず種々の神經過敏及神經の刺戟狀態にある人に必要なる應用なり

乙　高温浴に於て其の温三十五度以上なる時は温の消散障害及ひ温の添加に由りて一浴の後軆温三十七五度乃至三十八、八度（リーペルマイステル）又四十度乃至四十四度の温浴に在りては其の軆温口内に於て三十八、六度（モスレル）亦四十六度の温浴に於ては其の入浴時六分にして四十、七度の軆温に昇騰す（ペルッ）如此にして浴温高く且つ長きに從て益々軆温の昇騰を來す然りと雖とも浴後一二時を經過すれば常温に復するを通常とす

五十度以上の高温浴には吾人人類の器關は官能に無害に堪へ得ざるが如し即ち始め皮膚血管收縮するも直ちに弛緩し潮紅充脹す皮膚知覺の變常す局部位神經神は粗鬆の感覺を呈し疼痛感覺及電氣反應過敏となり温神は鈍麻す其皮膚に血液の集積を來すを以て内部器臟の血液は減却す而して皮膚血管の弛緩は尙は長時間持續し赤血球は減少す從て血行上に影響じ脉搏頻數となるを軆温昇騰に平行す三十八度乃至三十九度の温に於て十分乃至十五分時浴するときは脉數一分時に十二至乃至十五至を增加し呼吸數之に伴ふ

皮膚の分泌は高温浴の後に於ては增加するも熱浴後

(Allr Iniasen pander)には減退す

如此にして高温浴は皮膚外表に血液を轉移充張せしむるを以て皮膚の充血充漲及び發汗を增進し內臟器關を貧血の狀態に生し此等の血液分配によりて物質交換作用所謂分泌吸收を促進し神經作用に對しては其の知覺興奮及運動興奮乃ち隨意筋不隨意筋の痙攣等を鎭靜す

●丙　冷浴は其の温三十四度以下に於てす而して二十、五度以上の冷浴廿分時に過ぎざるときは體温變常なしと雖とも其の時間の長きに從て下降す（所謂初發後作用なり）次て代償性體温升騰（乃ち續發後作用）の顯象を來す尚ほ浴後低く九度乃至十一度に於て入浴二十五分時以上に及ぶときは體温速に下降す此の下降換言すれば温の消失量は浴温度に併行す然れとも吾人身體温調節機は其の消失に準して發生を增加し常に調節を勉むるものなり

冷浴するや初發現象として寒冷感覺惡寒及戰慄を來す之れ刺衝性の强き婦人の如きに於て著し而して其の感覺は浴時久しきに從て漸次減退す其の影響は心臟の皷動に及び最初興進せらるゝも後減却す又た皮膚血管は收縮するも次いで弛緩し血液の流入を增し一時蒼白色となりし皮膚は潮紅し全身一種爽快なる感を覺ふ又血液に於ては赤血球血色素及比重を增加す此等の狀態は浴後三十分時を經過するときは常況に復す又新陳代謝乃ち物質交換の影響は各専門家の調査成蹟悉く一致し「冷水浴は全身器臟の酸化作用を催進し炭酸の排出及び酸素の吸收を增加す」尿の排泄量は浴後一時性に增加するも二十四時間內に於ける全量大差なし之れ吾人の日常經驗する如く冷感後に小水多量に出つると一般なり

今日冷水浴は醫家治療上に解熱手段として應用し實に爭ふ可らざるの效果を得彼の醫家の常に口にする

「プリスニッツ」氏療法所謂罨法なるものは本浴に由來するものなり此等は自家病者の存するとき應用すべく心得るの必要あり以上三浴の温作用を略述せるを以て左に尚ほ浴器械の作用を述べん

浴の器械的作用は吾人平生の浴法に於て望む可らず入浴時に當りて浴液をして斷へず灌注及流出を持續せしめて波狀の動搖を惹起せしむるときは僅に其の作用を顯はさしむるを得可し然りと雖とも著明なる作用は種々なる灌漑法にて見るを得彼の瀑布浴の如きは其の一なり器械的作用の主として水壓に因する局處刺戟にして皮膚毛細血管の壓力增加を來し淋巴行を催進す之れ組織内の滲透機能に由りて分泌機能及ひ吸收機能の上に作用するによるものなり

上述せし如く常温浴にあり浴液動搖なく靜止の狀態にして浴者其の中に在るときは同一の水層を以て身躰を被ひ神經系及血管に鎭靜的作用をなす之に反して浴液常に動搖（波動）の狀態なるとき例之振盪浴Wellen baderの如き時は最初身躰に觸接したる水層は一瞬時間にして去り他層之れに代る如此く交代循環究り無くして其の永續的水層交代は毎に新規の刺戟作用をなし精神快濶興奮し心臟機能及呼吸作用を催進す加之ならず懸浴乃ち瀑浴の如きは水層身躰に向て絶えず有力なる水線をなして落下するを以て壓迫性器械的刺戟となり皮膚の血管神經に及び其の血液循環を催進し或は神經を衝動して知覺異常症の如きは快復せしむるの效力あり

此等の作用の程度は原動力所謂浴液動搖の強弱に關係するものにして強力なる瀑浴の如き落下全身浴は反抗作用として全身筋肉。運動に轉致し大に物質交換を誘起す又た霧浴或は雨浴は水の細分せらるゝものなるを以て其の器械的作用輕易なるも身躰末梢の知覺神經の刺戟としては著大の效力を有するもの

なり於是乎日本溫泉濫布の如きは醫士指定の下に病者に應用せしか其の功最も妙なりと雖とも今や一般奢侈を競う一槽獨占を名譽とする如き弊を矯めは其利大ならん之より鑛泉浴を述べん

●鑛泉浴　又常水浴と同しく溫度の高低により溫度的作用及び器械的作用を全身に及ぼすものにして只た異なるは其の含有物質に從を化學的及電氣的刺戟をなす倘ほ鑛泉は多く山間或は海濱等に湧出するを以て同時に氣候療法を兼ぬるものなり化學的刺戟は鑛泉中に存する瓦斯及發揮性有機物主として作用するも固形含有物と雖も全く無意味のものにあらさるか如し彼の鐵泉に於ける炭酸硫黃泉に於ける硫化水素又海水浴に於ける食鹽類及鹽化合物の皮膚を刺戟するか如し之か爲めに反射的に新陳代謝所謂物質交換の上に大效を現はす

鑛泉成分の皮膚に吸收せらるゝや否やは甲論乙駁未だ完全の證明をなす能はさるも大略左の解釋は敢て失當にならざる可し健全無恙の皮膚を滲透して血液中に吸收せらるゝは炭酸硫化水素の如き瓦斯及揮發性依的兒性物質なり爾他の溶解性物質は極めて少量に吸收せらる然れとも之れ Kisch 氏鑛泉浴前高度の石鹼浴をなしたるとき始めて顯はるゝものにして吾人の皮膚の吸收障害の機轉と見做す如きは繼續分泌（卽　毛鞘のセーブム、汗腺分泌、上皮落屑等）なるを以て之を除去したる後にあらざれは其の吸收を營むとなし又高溫浴にして浴者皮膚を強く摩擦するときは毛細血管充脹し且つ液體表皮に浸淫し相互に親密なる觸接により吸收を催進す而して皮膚吹收機轉の最後に考ふ可きは彼の滲入及滲出の兩機にして其の稠度を異にする異質物體間に行はるゝものにして組織間に滲出せる體液と浴液との間に於ける稠度を異にするを以て例之鹽類の如きは體液中に移

行するものなり
鑛泉浴の電氣刺戟に就ては近來初めてスコーテテッンSir Scoutetten氏に由りて僅に其の聲を高むる處となり一般に承認せらるゝも詳細に至りては不明に屬す抑も鑛泉の吾人々躰に觸接するや强力なる電流を起す（常温浴に於ては弱し）而して炭酸及硫化水素に富む温鑛泉は最も電流の善導躰なり故に鑛泉に沐浴するときは同時に電氣療法を受けつゝあるが如し實に自然良能と云はんか天の賜豈に吾人の幸福ならずや

尙ほ鑛泉より遊離する瓦斯及温によりて發生する瓦斯性物質は呼吸器より吸入せられて血中に推移するものなり此の瓦斯及瓦斯性物質の吸收は身躰分泌物中に證明せらるゝ例之硫黃浴に於ける硫化水素。海水浴に於いて空氣中に孕抱せらるゝ食鹽の如きものにして此等は浴の一般効用上決して忽諸に付す可らざるものなり

以上記述せる處に由りて浴の大躰に就て畧ぼ了解するを得ん次に海水浴の效用を述べんとす予は日本の鑛泉は大に佳賞するも浴地の裝置及諸般の衞生的設備完からざるを以て夏季に於ては寧ろ海水浴を勝れりとす本誌前號に Ostend の浴景あり實に盛んなりと云ふ可し

●海水浴　は人工食鹽浴に準す可きものにして海水普通の含有成分は鹽素化合物即ち食鹽鹽化麻倔涅矢亞硫酸麻倔涅矢亞及硫酸加叟矢謨にして温度より云へば所謂冷水浴なり如此にして海水浴は温度的化學的作用を有するのみならず波濤の動搖に依りて器械的刺戟を與ふ又た最も緊要なる效價は海上氣候上の生活なり

海水は所によりて多少成分に異同あるも三%四%の固形物を含み上記成分の他沃度及臭素化合物を存し

其の食鹽含量は近海に於ては差あるも大洋には毎に殆んと均等なり日本海岸の海水浴場に於ては未だ之が含量を測定せるものなしと雖とも歐洲の北海岸東海岸アトランチック海地中海及アドリアンチック海等盡く測定して明なるも必要ならざるを以て略す

海水は常水に比して温の不良導性なるを以て陸上氣温下降するも其の温度は比較的下降せずして久しく其の温を保つ又海水の波濤は各地海岸の狀况風向の變化に由り一定せず而して海岸の風向は朝夕變化す海水の温度は吾人應用の最も多き夏季に於て之を計測する喫緊なりと雖も日本に於て未だ之れあらず獨逸海岸は北海十四、二度乃至十八度東海十三、八度乃至十八、九度地中海二十二度乃至二十三度アドリアチック海二十二度乃至二十七度にして日中の變化著しからず日本海岸に於ては殆んと地中海水の温度に一致し盛夏の候或は二十三度以上ならん

海水浴の吾人身体に及ぼす作用は前段を參照せば自ら明かならん然り而して健康者の外に如何なる病者に對して應用す可きや乃ち腺病、貧血症、種々の神經病例之（ヒステリー、ヒポコンデル）及神經性消化不良等なり之に反して概して內部出血の恐れあるもの例之血管硬變症高度の羸瘦に貧血を兼ねたるもの及び急性病後の快復期にある者にして此等は海水温浴甚だ良し

入浴時間は短きを宜しとす殊に朝餐後二三時にして海中にあること二三分反應乃ち寒冷の感去りて爽快に温暖感覺を來したるときに去る可し大抵一日一回或は二回にして氣温十五度乃至十九度を適當とす

海水浴場は海岸遠淺にして砂礫の底面を有し其他諸般の裝置整備せるを要す

●湖水浴　海水浴に次て應用す可きは湖水浴なるも概して鹽類に富み温度低きを以て刺戟強し故に二十

歳以下の小見或は高老の者は大に注意せざる可らず本邦四方環らすに海を以てす從て湖水浴の必要を認めず

爰に演説中に申せし「プリスニッツ」氏水治方の歴史を申さんプ氏は本療法に於て其の名世界に高し故に有名なる大家なりしならんとは何人の頭上に浮ぶ處にして予又其一人なりき事實は然らずプ氏は實に澳國シェレーツゴンの一農夫にして始め之を動物に試み次て自己の肋骨々折に用ひて治療せしめたり之より四方の病客彼の門前に蝟集し一千八百三十年に至り所轄官衙の許可を得てプ氏水治方院の開設を見るに至れり氏は个病に對する精密なる視察を遂け其の規則を制定し今日尚應用せられつゝあるもの多し而して氏は其原理を身體の惡液を體外に驅逐するの基礎の上に立ちたり於是種々の方法を試みたりと雖も充分の成效を見す遂に規則正しき水治方を採るに至れり之れよりプ氏水治院に類似の治療院續出し加ふるに一般營養療法及體育運動に注意するに至り今日の域に達せり

寄書

肺病豫防養生法（第十七）

醫學士　竹中成憲君

明治三十一年に於ける東京府下十五區八郡が肺病患者死亡統計は七千五百人なりしといふ豈恐れざるべけんや

明治三十一年文部省令第二十號を以て學校傳染病及消毒方法を定められ其第一條學校に於て特に豫防すべき傳染病第一類乙に本病あり敎員諸士は勿論父母たるものゝ承知すべきことなり

古今の名士此病に死するもの多し維新前は病名不定の爲め審ならざるもの枚擧に遑あらず賴山陽は明に此病の爲め死せり木戶參議亦然り陸奥外相のことは皆世之を知る中村芝翫(體格上等なりしも)も本病の爲め死せり

男女共に本症の發するは春情發動期(としごろ)即ち二十歳未滿の頃にあり既に三十歳に至れば安心して可なり子を持つ者大に注意すべし尤も三十歳以上に至ても全く發せざるにあらざるも多くは輕症なり

體質薄弱にして肩及脊部に細き毳毛の生じ居る人あり此人は肺病に罹り易し

健康なる人の皮膚は夏期氷に觸るゝが如く冷なり夏期皮膚の温き人は虛弱なる人と知るべし

衣服の事

夏は別に心配に及はずと雖も常に腹部へは白木綿を巻き冷へぬ様にすべし冬は衣服の下に「フラチル」にて製せし「シヤツ」及び股引又は同樣の長襦袢を着すべし「フラチル」の下には「メリヤス」を宜ろしとす「フラチル」及ビ「メリヤス」を用ゐざるものは白木綿を代用するも宜し感冒せざるやう注意肝要なり

皮膚に白木綿を用ゆるには新しきもの宜しからず數回洗ひ晒したるもの却て暖まるの效あり新しき物を用ゐんとせば糊を洗ひ落す可し總て皮膚に直接に觸るゝものに絹及金巾はよろしからず

皮膚に觸るゝものは皆度々洗濯し清潔にすべし又惰弱の小兒に餘り澤山衣服を着するは宜しからず衣服の重量にて肺の運動を妨け却て害となるべし

西洋にては一回金一圓以上にあらざれば入湯し難し(其高き理由は一人每に湯を替ゆるに因る)故に中等の人たりと雖我國に於けるが如く屢々入浴することなし之に反して「シヤツ」は殆んど每日之を新しく洗濯したるものと交換せざることとなし甚しきは一

日二回「シヤツ」を交換するものなり

坪井博士著生理教科書ニ日ク

「頸部ハ露出スルヲ可トス蓋シ皮膚表面及ヒ衣服ノ間ニ於テ加温セラレタル軽キ空氣ハ襟ヲ通シテ上昇シ頸部ニ觸レテ此部ヲ温ムルカ故ニ敢テ保護スルヲ要セス彼ノ襟巻等ヲ以テ纏絡スルカ如キハ頸部ノ皮膚ヲ軟弱ナラシメ反ツテ感冒ヲ招クニ至ルベシ」ト

我國にては殆んど毎日入浴せざるとなきに係はらず襦袢は垢の爲に褐色となり藍の爲に藍色となるも之を改めざるもの多し蓋し我國に於て襦袢は殆んど必ず濃淡黄色を用ゆるは汚穢を覆はんが爲なり約言すれば西洋に於ては容器を清潔にし中身を不潔にす我國に於ては中身を清潔にし容器の不潔を問はず何れも極點に走れるものなれば宜しく折衷して内外共に清潔ならしむるを要す

襟巻として「ハンケチ」等を頸に巻くは良しからず秋より冬の移り換りに可成之を廢すべし慣習久しきに及べば之を要せざるものなり壯年の士ダテに之を爲すは弱兵を作るの元素なり



●歯に對する煙草の害毒

賛成員　關　善　重　郎君

夫れ煙草の害毒を人身に及すとは一般醫家の至難する所にして且つ實驗に徵して明かなるに由て敢て記述するは却て重復するを以て之を除けり故に玆には只煙草中に含有する最も害毒となるニコチンの性質を記し次には人身に及ぼす害毒の著明なる事を試みる實驗及主なる論題に就て虚空ならざるの價値を論ぜんとす

煙草の葉及其種子中にはニコチンと稱する有毒物が存在す就中尋常の煙草には其百分中七乃至九分位迄存在す而してハヴワナ煙草中には凡そ二分乃至三分弱位迄含有す此者は無色の液体にして尋常煙草に類する臭氣を放ち之れを水中に入るれば容易に溶け且

つ空氣中にては褐色に變じ甚だしき有毒物なり。今ニコチンを皮下に注入し或は之れを血中に少量を注入すれば麻醉すれとも一たび大量を注入すれば速かに全身痙攣を發して斃るゝ者なり又ニコチンの神經より呼吸に及ぼす感應の殊に其過敏なるは鼻神經の刺戟にして家兎の鼻中に煙草の烟ニコチンを吹き入れて之れを吸入せしむるときは呼息に於て呼吸靜止久しく持續すると云ふ事は或生理書に見えたり
喫煙の全身健康上に有害なるとは今更喋々を要せずして明かなり故に吾人に最も必要なる消化器の一部分として衛生を重んずべき歯に就て其概畧を記述すべし歯も亦直接と間接に其害を蒙むる者とす
看よ喫煙者は歯の最も厭ふべき汚垢を染着せしめ玆に於て歯の表面は大に粗糙となり歯石の容易く堆積するの誘導者となり且つ又歯石は種々の疾病を惹起するの原因となる殊に本邦の如き金屬性の煙管を使用する時は歳月を久しく經る間には不知不識に歯の咀嚼面は磨滅を來し或は歯齦膜（歯齦膜とは歯根を被包せるの膜にして此膜は歯頸に於ては歯齦に緊着す）に焮衝を起し易く從て歯の脱落を容易ならしむるが如き事なしとせず屢々之れを見受けたり其他間接には神經痛、消化不良或は歯齦の病疾を牽起し以て歯牙の不良の結果を來すものなり其他口中の尤も恐るべき疾病例之ば舌の癌腫及顎骨の癌腫等の原因となるともあり前號にも記述せし如く歯は消化器の一部分として大に消化を助くる所の效用を有するを以て若し歯を喪失せば消化機の一部分欠損するが故に種々の疾病を惹起し榮養の不完全となるゝ等は論記したるを以て玆には之を畧せり我國の婦人の如きは男子に比すれば甚だ些少なれとも或丈は煙草を喫するが如き惡習慣は一般減少せんとを希望して已まざるなり

衛生叢談



◎乳房病の就て

在大學院 Dr. T. S.

前號まで引續いて、子宮の病に就て御話を致しましたが、餘り永引きまして、御退屈と存じますから、子宮病の方は暫く中止致しまして、本號から乳房の病に就て、御話し致します、

婦人の乳房、之が婦人に取つて、誠に厄介なもので御座いまして、之が病に罹ることが屢〻で御座います、乳房の病も色々御座いますが、其の内最も多い

●乳房炎

から、御話し致します、之に先ち乳房の數が多いかつたり、寡なかつたりすることがありますから、此の事を一寸と御話して置きます、

通常の人は乳房が二つ御座いますが、人に依つては二つ以上、三つも、四つも、多いのは七つ八つもあるのが御座います、之は決して珍らしい事では御座いません、澤山病人を見ます醫者になりますと、乳房の多い婦人を見ることが度々御座います、最も澤山乳房が御座いましても、其内左右各く一つゝが、よく發達して居つて、其の外のは只だ疣のようになつて存して居るのであります、牝犬のやうに澤山の乳房が發達して居ることは、頗る稀であります、其の外又乳房は一つでも、乳頭即ち乳くびが幾つもあることがあります、

之は乳房の多い方で御座いますが、時とすると乳房が全くない人があります、又乳房は二つでも、其形狀大小が色々御座います、大きいのになると、臍の

下までも下つて居ることが御座います、又垂れ乳杯と申しまして、乳房が垂れて居るのが御座います、之は添寝の際、乳兒を窒息させることがあると云つて、俗間では大に忌みます、

さて乳房炎には慢性と急性と御座います、先づ急性乳房炎から申しますれば、之れの起る原因は主もに、乳房殊に乳頭に疵を受けて、此の疵から有害な黴菌が這入つて、その爲に此の病を起すことが多くあります、從つて乳房が疵を受け易い時期、即ち婦人が小兒に乳を哺める時期が最も此の病に罹り易いのであります、本來婦人の乳頭は未だ哺乳しない内は、極く小さく御座いまして、時とすると窪んで居ることが御座います、此の上を薄い皮で掩ふてありますから、極く柔かであります、之が一旦小兒に哺乳するようになりますると、此の皮が剝離しまして、小兒が強く吸ふ爲めに、柔かい乳頭が裂創を生ずるのは、無理ならぬ次第であります、此の裂創は假令ひ眼で見へぬとも、強く痛みますから、すぐ分ります、此の裂創の上を、汚れた着物や手で擦るので御座いますから、丁度種痘を植ゆると同じ樣な譯で、汚れた着物や手に附着して居る、有害の黴菌は、大悦びで此の裂創より乳房の中に侵入するので御座います、

その外又乳頭を不潔にして置く爲めに、附着して居る乳などが腐敗して、この爲めに潰瘍を作り、之れから黴菌が、這入ることも御座います、又小兒が生長して齒の生へた時分に、乳を噛むとか、或は又何か粗相で乳房を打つた場合などに、傷が出來て、其處から黴菌が這入ることもあります、

兎に角以上に述べた樣な原因で、乳房炎が起りますと、先づ第一に惡寒がして、それから熱が出ます、乳房は腫れ上つて甚しく痛み、手で觸れて見れば

堅く御座います、此の時にすぐ、適當の手當を致しますれば、其の儘治ることもありますが、大抵の場合では、斯の如く早く氣が付いて、治療を施すことは、少なふ御座いまして、多くは漸次病勢が進んで、遂に膿を持つので御座います、斯くなれば熱も高く、痛みも強く、乳房は赤く腫れ上がり、甚しき場合には譫語を發することが御座います、

最早や膿を持つて參りましたらば、速に醫者の療治を受けて、膿を出さなければいけません、左なくば毒が身躰中に廻つて、終に生命を危くすることが御座います、

以上申しました如く、乳房炎は中々多い病で、しかも危險な病で御座いますから、乳兒を持たるゝ婦人方は、その豫防法を講じなければなりません、それには姙娠中の婦人方は、お産の暫く前から、日々清潔な布片を清潔な水に浸して、之を乳頭の上にあて置くときは、上を掩ふ皮が剝離して乳頭が丈夫になりますから、傷を受くることが、寡なふ御座います、最もよきは、五十倍の硼酸水をカーゼに浸して之れで罨法を施して置くのが、宜しう御座います、

其他又乳を哺める婦人方は、常に乳房は勿論、其の周圍を清潔にして置くことが、必要で御座います、又衣服殊に襯衣は常に洗濯して、乳の此等に附着して居らぬようにして置く事が、必要で御座います、

若し乳房に傷を受けたことを悟りたれば、速に五十倍の硼酸水で洗ふた後ち、護謨製の乳頭帽子を乳頭の上に冠せて、其上から小兒に乳を哺めるのが宜しう御座います、(乳頭帽子は醫療器械店で買つて居ります、丁度海水浴場で用いて居る麥藁製の朝鮮帽子の形ちのものであります、)

不幸にして乳房炎に罹りましたらば、極初期なれば氷で冷やすのが宜しう御座います、(假令ひ自分では

初期なりと考ふるとも、醫者の診察を受くるのが最も安全で御座います。）若し膿を持つ樣で御座いましたれば、速に醫者の治療を受けて、外科的に切開して、膿を出して貰らわなければなりません、今日では外科學が進歩して居りますから、決して麻醉劑などを用ひませんでも、局所麻醉と申しまして、乳房の周圍に少しく藥を注入しますと、夫れで少しも痛みを感ぜずに、療治を受けられますから、決して躊躇する事なく、速に療治を受けなければなりません、勿論醫者は可成上手な外科醫でなければなりません、

尚ほ一つ申上げて置きたい事は、假令ひ乳頭に傷が出來ましても、或は又乳房炎に罹りましても、決して乳を哺めることを、中止してはいけません、乳を溜めて置きますと、其の爲めに色々と惡い徴候が起ります、假令ひ乳房炎を煩ひつゝある人の乳でも、小兒には決して毒では御座いません、尤も膿が乳と共に小兒の腹に這入りますと、小兒は下痢を致しますから、此の場合に小兒に代り、大人に乳を吸ふて貰ふのが宜しう御座います、尤も此の際乳を吸ふ人は、豫め口を清潔に嗽いで置くことを忘れてはなりません、

◉病的の現象（前號の續）

（六）粘膜の變化　するのは、譬ば唇が蒼ざめたり、又かさぶたの付たりするのや、舌に苔の付いたのや、或は舌の乾燥したのや、齒齦の脹れたり膿を持つたりするのや、或は又血が出るのや、口蓋や喉に白い膜の樣なものゝ付くのや、口から臭い呼氣の出るのや、眼、耳、鼻抔より血や膿が流れ出るの抔であります、

（七）五官の働きの變化　するのは、光を見るとまぼ

しくなるのや、物が二つに見ゆるのや、或は全く物の見へぬのや、耳が鳴つたり、或は又物の聞様の鈍くなつたり、或は全く聞へぬ様になつたり、好き香ひを不快に感じたり、或は不快の臭ひを快よく感じたり、或は全く香ひを感ずることの出來なくなつたりするの類であります、

（八）感覺の變化　するのは、二た通りありまして、一つは感覺の鈍るのでありまして、冷たいものに觸れても、熱いものに障つても、或は物で打つても、之を左程冷たくも熱くも感ぜず、又た痛くも感じないのであります、之に反して、一は感覺の鋭敏になるのでありまして、僅かに觸れても非常に痛く感じます、勿論感覺の鋭敏になるのが必す病氣の重い印しでは御坐いません、現に癌などを病んで居る人も、初めは左程痛みを感じません、痛みの強いのは、齒根、指、骨、關節抔に膿を持つた場合だの、神經痛の時だの、腎臓、膀胱抔に石の出來た場合だの、或は胃、腸、膀胱抔に痙攣の起つた場合抔であります、之に反して大傷をした跡だの、外科の大手術を施した跡抔では、左程痛みを感じないものであります、

（九）脉の變化　するのは色々ありますが、先づ脉が早くて弱いのは、氣の遠くなつた時や、血を澤山失なつた時や、強く嘔吐した時や、瀕死の病人抔に屢々見る處であります、次に脉が早くて力のあるのは、熱病の人や、或は丈夫の人でも、烈しく身体を勞した跡では常に見る處であります、脉の遲いのは、頭部に傷をした人や、心臓病の一種や、熱のあつた病人に熱のとれた後ちや、産後の婦人抔に見る處であります、終りに脉の不規則なのは、老人にはあり勝の事では御坐いますが、若し病人で今まで脉の規則正しくあつたのが、俄かに不規則になりますのは、之は頗る心配すべき現象で御坐います、

(十)躰温の變化　しますのは二た通ありまして、一は躰温が常温即ち攝氏の三十六度五分以下に降るのでありまして、之は外科の大手術を施した跡や、大傷をした跡抔の如く血を失ふた場合や、毒に中つた場合や、コレラ、腹膜炎抔の如き病氣に罹つた場合に見る處で御坐います、一は躰温が常温より昇るので御坐いまして、熱病患者は勿論、日射病抔にても見る處で御坐います、

(十一)呼吸の變化　するのは色々御坐いますが、先つ第一に呼吸の早くなつて一分間に二十五六にもなりますのは、熱病患者や、其他の重症患者に於ては勿論、病人が少しく無理に身躰を動かした時や、或は又健康な人でも強く勞働した跡では、常に見る處であります、兎に角呼吸が頻繁て、脉が多くて温度の高いのは心配な徴候で御坐います、次に呼吸の淺いのは、寝て居る人や、氣の遠くなつた人や、或は又肋膜炎抔の様な病氣で呼吸の度毎に痛みを感ずる患者に見る處であります、呼吸の爲に痛みを感ずるのは、肋骨の折れた人や、肺に傷を受けた人や、其の他又肺炎抔の人に見る處であります、次に喘息の人や、溺死の人抔にては呼吸が困難で、しかも其の度毎にザア〱と音が致します、

呼吸の一種で御坐いますが噴嚔をしたり咳嗽をするのは鼻や喉に異物の這入りた時であります、其他又咳嗽の出るのは氣管や、肺に病氣のある時であります、其外又喉が腫れます口鼻いきが荒くなります、

マラリヤ熱の話

前號に、マラリヤ熱と、蚊との關係に就て述べておつて、蚊の中でも「アノフエリス」と云ふ種類の蚊が、此の毒を人躰に傳へると云ふ事が述べてあつた、全躰マラリヤ熱と云ふ病は、非常に多い病で、

醫者の方では間歇熱と云ひ、俗間では瘧と云ふて居る病で、男女老弱の區別なく、皆な此の病に罹り得るのであるから、讀者諸姉は豫め此の病は如何云ふものであるか、又此の病を豫防するには如何したらよいか、又此の病に罹つたら如何云ふ風に療治をしてよいかと云ふことを、豫め知つて置くことが必要と思ふ、それであるから重複の樣ではあるが、茲に餘白を借りようと思ふ、

全躰マラリヤ熱と云ふ病は、前號にも述べてあつた通り「マラリヤ、プラスモヂーン」と云ふ、極小さな動物が、人間の血液の中に這入る爲に起る病であつて、此のマラリヤプラスモヂーンの中にも、色々種類があつて、此の種類の異なるに從ひ、起る瘧にも色々區別がある、譬へば通常世間に最も多い隔日に發作する瘧と、三日瘧と云つて、三日目に一回ツヽ起る瘧とは、之を起すプラスモヂーンが異るのである、夫れ故に三日瘧の人の血を採つて、健康な人に植ゆれば必ず三日瘧となり、通常の瘧の人の血を採つて植ゆれば、必ず通常の瘧に罹るのである、

前にも述べた如く、マラリヤ熱には色々種類があるが、日本にあるのは幸に極く輕い種類斗りであつて、通常隔日に起る瘧や、日瘧や、三日目に起る瘧などであつて、多くは藥を用ゆると治癒するから、世人は瘧と云ふ病を左程怖れないが、熱帯地方に在つては中々重い瘧があつて、其の爲に生命を失ふものが寡くない、今茲では先づ日本に最も多い瘧から、述べることゝしよう、

瘧の起るのは、マラリヤプラスモヂーンが、血の中に這入つてから、直ぐ起るものではない、潜伏期と云つて、五六日前後の日時を置いて起るのである、此の潜伏期の間は、別に氣分に變りのない事もあるが、時とすると身躰がだるかつたり、食慾が減じた

り頭や節々が痛む樣なことがある、

さて瘧が愈々起る段になると、急に寒む氣がして、身體がビリビリと震ひ、幾ら夜具を掛けても治らない、此の時に病人の身體に觸れて見ると、皮膚は冷たくて、顏は蒼ざめて居る、こう云ふ工合で、大凡そ一二時も續いて居ると、今度は急に熱が出て來て、皮膚は熱く、顏は赤く、脉は強くなつて來る、瘧では體温が中々高く昇つて、屢々四十一度以上にもなることがある、此の時は患者は前と反對で、熱くて〳〵して堪られなくなる、こう云ふ工合で、三時間から、五時間位續くと、今度は熱が引き初めて、汗が澤山に出て、終に常温に復するのである、こうなると患者も、誠に心地よくなつて、殆ど前の苦しみを忘れた如くなる、それから翌日は何ともなくて、其翌日即ち二日目になると、前と同じ時間か、或は少し早いことも、又遲いこともあるが、前と同じ樣な發作があつて再び苦しむ、それで治療を加へないと、又々二日目に、前と同じ樣な發作があつて、患者を苦しめ、爲に患者は段々と疲勞して、來るのである、

以上述べたのが、普通の瘧の常態であるが、日瘧と云ふのは、此の發作が毎日あるので、從つて患者の疲勞することが甚しい、三日瘧と云ふのは、三日目に發作があるのである、

以上の外、熱帶地方には、色々容子の變つたマラリヤ熱があつて、中には熱が全く不規則で、神經が大いに犯かされたり、或は胃や腸が主に犯かされて、下痢をしたり、腹痛をしたり、心皷動が強くなつたり、節々が痛みたり、方々から出血したりする樣なことがある、又全く熱のないマラリヤ熱もある、此等は誠に怖るべき種類である、之がマラリヤであるといふ事は患者の血の中にプラスモヂーンが居るの

で別る、

扨て以上述べた如く、懼るべきマラリヤ熱を防ぐには、第一に前號にもあつた通り、蚊を絶やすのが最もよい、其の次に蚊、殊に「アノフェリス」に刺されぬ様にするのがよい、次にマラリヤ熱の流行する土地に住はぬがよい、若し止を得ずして、其の地方に行く場合には、常にキニーネ丸を用ゐるのがよい、此の藥は醫者から貰ひ受るがよい、此の藥を日々用ゐて居れば、決して此の病に罹ることはない、

若し不幸にして瘧に罹つた場合には、發作の五六時前に、キニーネを用ゐると、夫で瘧が取れて仕舞ふ、キニーネは、實に瘧の適藥であるが、若し分量を誤ると、色々な危險を引き起すから、決して素人療治で、用ゐては不可ない、又一旦瘧に罹つた人は、再びこれに罹り易くなるから、豫め充分前に述べた、豫防法を講じなければ不可ない、



看護法

普通看護法（前號の續き）（第十一）

Dr. T. S.

罨法の話

罨法と申しますのは、身體の一部分に暫くの間、寒さなり或は温熱なりを働かせる事で御坐いまして、短かければ一二時間で足りる事もあり、又一週間以上も續けて致さなければならない場合も御坐います、さて罨法にも寒さを働かせるのと、温熱を働かせるのとがありますから、今之を區別して御話しする事と致します、

第一　冷罨法

此の罨法は申す迄もなく、寒さを身體の一部に働か

せる爲に行ふ罨法で御坐いまして、之れには手拭なりガーゼなり、或はモンパの布片なり、或はフランネルの布片なりを、丁度冷やそうと思ふ部分丈の大さに四重から八重位に折り重ねて、之を冷水にて絞り丁度雫の滴たらぬを度として、之を冷やそうと思ふ部分に當るので御坐います、勿論斯の如くして當てましたものも躰温で直に温たかになりますから、此罨法を致しますには、豫め二た通りの布片を用意して置きまして、一方を身躰に當てましたらば、一方をすぐ冷水に浸して、弐三分毎に交互に仕替へて當るように致さなければなりません、

若し冷水にてはまだ寒さが足りない場合には、冷水の中に氷の碎片を入れまして、此水で片布を絞つて當てれば宜しう御坐います、

第二　氷嚢罨法

此罨法は氷嚢の中に氷の碎片を入れまして、之で身躰の一部に寒さを働かせるので御坐います、

氷嚢には色々種類が御坐いますが、最も便利なるはゴム製で口が金物で出來て居るので御坐います、之は醫療器械店で賣て居ります、若し此のゴム製氷嚢が間に合はぬ場合には、通常世間で用ひます、動物の膀胱でも宜しう御坐います、之は醫療器械店は勿論、藥屋氷屋牛肉屋抔で賣て居ります、此頃諸處で賣て居ります、紙製の氷嚢でも間に合はぬことは御坐いませんが、前二者に比べますと遙に不便で御坐います、若し上述の氷嚢が間に合ひませんければ、油紙に氷片を包んでも宜しう御坐います、

次に氷を氷嚢に入れますには、大凡そ胡桃位な大さに碎き、之を氷嚢に半分位入れまして、次に氷嚢の外部をフランネルの布片、或は二重から四重位に折り重ねたガーゼ、或は晒木綿で包んで後ち、身躰の上に當るので御坐います、若し氷嚢を直接に身躰に

當てますと、其の爲に皮膚に凍傷を起す事が御坐いますから注意なさなければなりません、

氷嚢を當てましてから三十分以上一時間も經ちますと、氷が解けますから中の融解た水を捨てゝ更に氷片を入れ替へなければなりません、

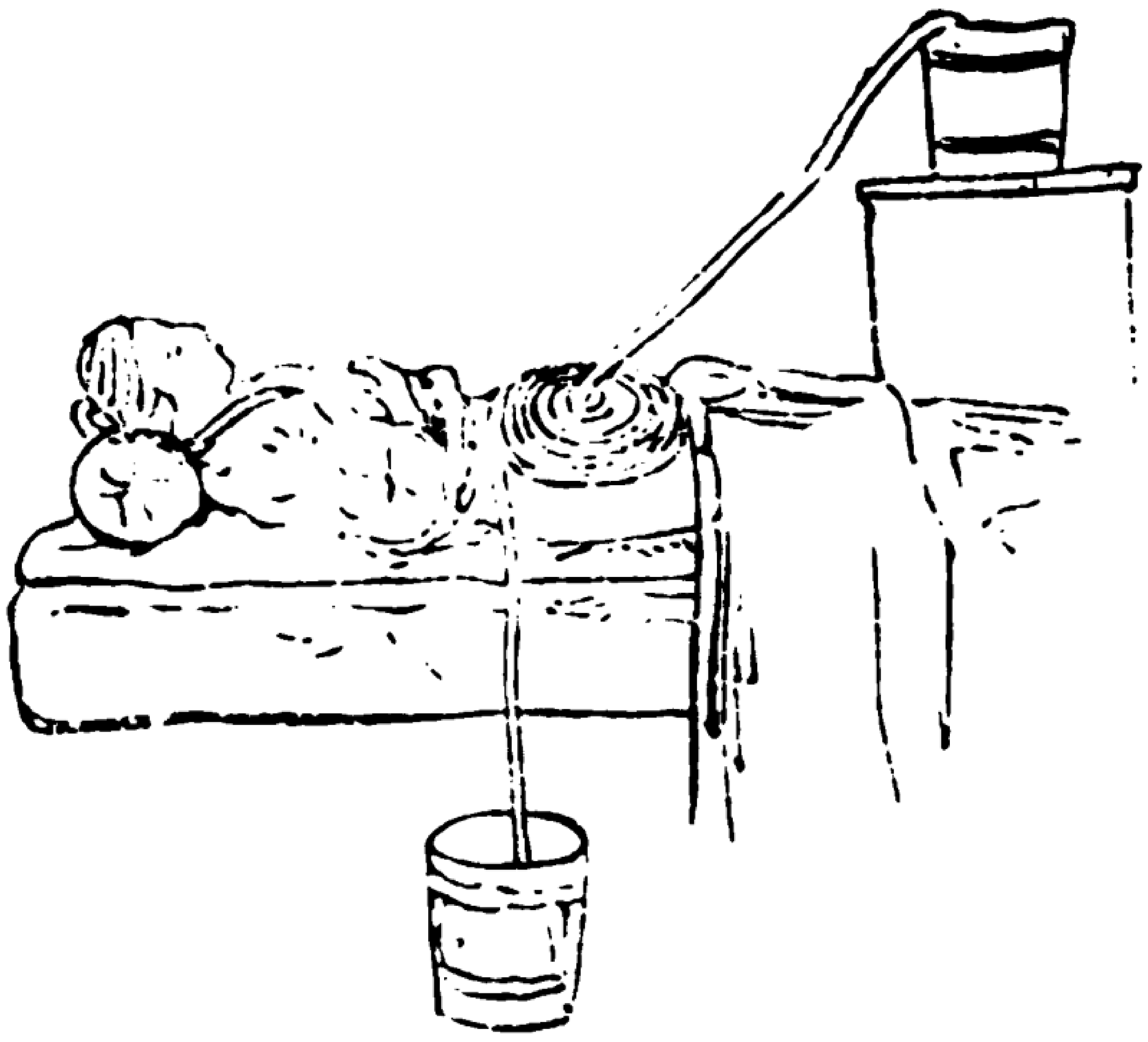
尙ほ一つ注意を要します事は、氷嚢に氷を入れた後で、嚢の中に這入つて居る空氣を充分押出して、口を閉ぢて置く事て御坐いえす、若し斯様にして置きませんと、氷嚢が身躰にひたりと當りません、又氷嚢を當てた後ちには其の移動ぬ様に、縛つて置く事が必要で御坐います、又身躰の部分に依りては氷嚢の口に、麻糸を附けて天井から釣下げて置くのも宜しう御坐います、

尙ほ一つ注意を要しますのは、氷を碎きますには、可成音響のせぬ様に、可成病人の寢て居る室より隔つた處で、錐或は針と金槌で碎くのが宜しう御坐います、世間では病人の枕許で氷を碎いたり、取替へたりするものが御坐いますが之は甚だ宜しう御座いません、

尙ほ一つ申上げて置きたいのは、既に御承知の事と信じれども、氷の解るのを防ぐには桶の底に藁を敷きて、其上に氷を載せて更に其上を古き毛布にて蔽ふて、床の下に入れて置くのが最も宜しう御坐います、或は又鋸屑（通常おがくづと稱するもの）にて氷をくるみ、更に之な古毛布にて包み床下に入れ置くも宜しう御坐います、

第三　ゴム管冷罨法

此の罨法は圖にあります通り、ゴム管を冷やそうと思ふ部分に捲き付けまして、此の中に冷水を通すので御坐います、看護をなさる方は圖に有る如く、ゴム管を身躰に捲き付けまして後ち、其の一方の端を水の入てある桶に入れ、一方の端を水を受る桶に入



れまして後ち、之を口で吸ひますと水がゴム管の中に通つてまいります、水が通りましたらば看護をなさる方は時々注意して、水を入てある桶に水を注ぎ足し、水を受る桶の水を汲み出せば宜しう御坐います、

若し通常の水では冷度が足らぬ塲合には、水の入てある桶に氷の砕片を入るのが宜しう御坐います、ゴム管を身躰に當る前には、必ず布片を二重から四重位に折り重ねて、其下に敷かなければいけません、

第四　ブリースニヘッ氏罨法

此の罨法は皮膚の上に平等の温度を働かせ、同時に皮膚を濕らして置く罨法で御坐いまして、之を致しますには前に述べた冷罨法と同じ様に、布片を四重から八重位に折り重ねまして、之を微温湯にて絞りて後ち皺をのばして、首なり手なり胸なり腹なり當てようと思ふ部分の上に當て、其上に油紙を載せ、更に其上に繃帯を施して置くので御坐います、油紙は通常の日本の桐油でも宜しう御坐いますが、可成は亞麻仁紙、パラヒン紙の類を用ゆるが宜しう御座います、此の油紙を濕つた布片よりは、大凡そ一武寸丈廣く當てまして、其上より繃帯を施すので御座います、

此の罨法は大凡そ三時間毎に、取替へれば宜しう御座います、

ブリースニッツ氏罨法には、又微温湯の代りに冷水を用ゆる事もあれば、或は又一乃至二%位の風鹽水を

用ひたり、或は又色々の藥液を用ゆる事も御坐いますが、之れは其都度醫者に御問合せ下されませ、

此の罨法を永く用ひた後では、又屢々皮膚に少さき粒々が出來る事が御坐います、此の場合には罨法を止めて、亞鉛華澱粉にても撒布して置けば治ります、尤も病氣に由りましては、假令へ此等の粒々が出來ましても尚ほ罨法を續けなければならない場合も御坐いますから、斯の如き場合には醫師は御問合せになるのが宜しう御坐います、亞鉛華澱粉は

亞鉛華末　三〇、〇
澱　粉　三〇、〇
右撒布用

て御坐いますから、藥店で御求めなさりませ、

第五　溫罨法

此の罨法は身體の一部に、溫熱を働かせる罨法で御坐いまして、其方法は前に述べました冷罨法と同じ様で御坐いまして、唯た冷水の代りに攝氏三十七度位の湯を用ひれば宜しう御座います、

第六　溫粥罨法一名パップ罨法

此の罨法は溫熱を永く働かせるもので御坐いまして、之には先づ溫飩粉なり蕎麥粉なりの類を土鍋に入れ、之に水を加へて攪きて後ち火の上に載せ絶へず攪きまわして、其の温まるを待ちて之を火より卸しまして、次に之を箸なり箆なりにて布片或は半紙の上に厚く延ばし、更に其上に片布なり半紙なりを當て丶、次に己れの手にて之を觸れて見て、餘り熱し過ぎはせぬかと云ふ事を試みなければなりません、斯の如くして適當の熱度であれば、患者の身體にフレーフ油なり胡麻の油なり、或は又椿の油なりを塗り付けまして、其上に此の延ばした溫飩粉即ちパップを布片に包みて當るので御坐います、此のパップは段々に冷へますから、大凡そ二時間毎には更に

新らしく製して取替へねばなりません、日本ではパップの代りに蒟蒻を温めて用ひますが、どうも早く冷へていけません、又一度使用したパップは、湯で蒸しますと再び用ひられますが、後には一種不快な臭ひを發しますから、新しく拵へた方が宜しう御坐います、

第七　乾温罨法

此の罨法には種々なものを用ひますが、其の主なるものを擧げますれば、袋の中に温めた砂或は糠などを入れて用ゐ、或は又香氣ある草を温めて之を袋に入れて用ゐる事もあります、之は主に顔を温める時に用ゐます、其の外又瓦、煉瓦、石、などを温めて之を布片に包みて用ゐる事も御坐います、其の外又世間で通常用ゐます灰爐、湯タンポの類も、亦此の罨法の一種で御坐います、

總て前に述べました罨法は、病氣に依りまして色々て御坐いますから、豫め醫師に御問合せになる事が必要で御坐います、



夏の部西洋料理（第十一）

横井たま子

●コーン牛肉

牛肉三斤を凡そ同じ厚さにして三四片に切りこれに鹽を滿偏なくこすり附け置きその肉の沒すると思ふ程水を注きこれに二つかみ斗りの鹽を加へ其加減を試るために生玉子又は馬鈴薯の内一個を水中に沒してその浮上らざる時は未だ鹽の不足せる證しなればその水上に浮上るまで鹽を加ふべし即ちその水上に浮上る時を鹽加減の適度とす鹽加げん既に度に適し

たれは此中に小匙一杯の硝石末を和し能くかきまぜて後肉を此中に列へ(極小なれは重ね)其上に板をおきそれより重き石を載せて凡そ二十時間おし置き翌日に至りて鹽水のみを鍋に取りて沸立ゝせその全く冷めたる頃復た桶に戻し元の如くおしをして凡そ八九日の後肉を(ソース鍋に取り之れを沒する程冷水を注入れ文火にて凡そ一時間半煮るべし既に煮え熟したりと認めたれは火より下して肉を取出しその冷むるを待ちて小口より凡そ二分位の厚さに切りその四五片を皿につけ適宜の芥子及ひ洋芹の若芽なぞを添へて膳に上すべし、

○赤茄子の蒸方

一人前二ッ宛に赤茄子を細かに切りて鍋に入適宜の胡椒末及ひ鹽を和し水少し斗りを注し一匙の牛酪を落して文火にて焦つかざる樣凡そ二十分間近く蒸したる頃一匙の酢を注して後に之れを五六分間煮るべし之れを鉢に入れ匙をつけて膳に出し適宜に取りて食すべし、

○氷菓子の製法

牛乳四合に白砂糖半斤玉子の黄身十二個を加へてよくかきまわし之を鍋に投してかきまはしなから粗と之を沸立たせその沸立を待ちて直に火より下して鍋のまゝ冷水に漬けて冷しその全く冷えたる頃小匙半杯の(レモン汁を和し鍋より之を錻葉製の筒に移してしかと蓋を爲し深桶に入れ筒の周圍に氷の塊と多分の鹽とを投れてたえず筒を動し廻せは凡そ十五分間乃至二十分間位にして筒中の混和物こり凍りて上等の(アイス、クリーム)を得べし但し桶は近來市中にてひさく所の機械附の桶を用ふれは更によし

●西洋漬物の折衷

小さき胡瓜と薤晶子を一夜淡鹽に鹽漬して三杯酢を(酢と鹽と砂糖)沸立て冷して鹽漬したる胡瓜と薤

晶子の鹽水をよくしたの而して｜ビン｜又は壺に入れその中に三杯酢をさし入口をかたくし目張すべし　但し其內へ芥子種子、丁子、又は肉桂の皮抔入るれは尚さらよし之は｜ビステキ｜又は、｜カレイ｜　抔食する時此｜ビックル｜を添へて食すれは至極妙なり

日本實用料理

○蓮めし

はすの若葉をこまかに刻み、ざつと湯を通し、常の飯のたき上かりたるとき、をか交せにす、又蓮の葉をいかやうにも刻み、煮出して二重漉しにして、その汁へ少し鹽を加へて飯を焚く、おのづから蓮の香りありて、雅客を歎はしむべし

○味噌汁

泥鰌の骨拔を白焼し、新牛房をさゝがし水に浸し、茄子の皮をむき小なるは輪切、中なるは半月に切り之も水に浸し、共に味噌汁に入れて煮るべし、香料に青山椒

○吸もの

えびのつみ入れに、冬瓜のせん切　香料は柚子

えびの皮をむき頭と尾を取り爼の上に載せて庖丁の背にてたゝき少し鹽をふり丸めて湯でるなり

冬瓜のせんは一寸位細くきざみ一寸湯でるなり

○鷄卵の奴豆腐

玉子の白身も黄身も一所に鰹のだし汁に（だし汁に醤油とみりん又は砂糖にて味つくべし）てよく攪交、小さき菓子打の底を拔きその底を美濃紙にて貼り洩らぬ様にし之をさなの上に載せて蒸すなり（蒸せは釜に湯を少し注しこいのふをふせて其上に載せて蒸せば簡易にて早く蒸せるものなり）而して後豆腐の如くに切鉢に水を入れ其中に浮かせて小皿を添へ鹽からきを好むものには生醤油を入れ香料は青唐がらしを細かに小口切し又は青紫蘇を細かに切、新生姜をおろして添へるもよし、

之をも小皿に盛り合せ而して客に出す夏向は最上の料理なり

○土佐料理鰹

鰹を三枚におろし骨付皮を取り去り大きければ肉を竪二枚にそぎ又横二ツにきり串に貫し、鉋屑をつみ藁火を付けパット燃へ立時串にさしたる肉を上下あぶり焼にし（上かは一分ほどもやけば赤き生肉の如くなるをよしとす）而して刺みの如くに切り鹽をふりかけ其上に酢をかけ、紫蘇の身新生姜、柚子の皮を刻みあしらへとなして食すべし鯖も同し仕方にすれば又之もよし

○茄子の芥漬當座食

茄子を横竪に切一夜鹽壓し（鹽淡き方よろし）麹と芥を醤油にて捏ね交壺に入れて漬るなり、其割合は茄子中小打交り百六十位麹は大板一枚、芥二合半、

○淡鹽したる茄子の鹽水をすいのふに上げて水をしたみ麹と芥を手にてもみ交ぜ醤油を入れ味噌位の堅さに捏ね茄子を入れてよく交壺に入れ壓付その上に竹の皮を引き壓蓋をして小さき重石を置き翌日より喰すべし夏分は一週間位、秋季になれば二週間位はたもつなり茄子を喰したる跡殘りたる麹と芥へ同し仕方の茄子めうがと生姜なぞ再び漬て喰すべし

衞生海

又々結核の事から初めましやう●肺病初期肺病の素因ある躰質はマヅ下の如きものです●胸廓が狭く前に屈み初期はだん／＼痩せて身體の目方のへるのが多い併し隨分身體のよい人もありますから一様には云へませんソレで皮膚の色は御定まりの蒼白く殊に頬の邊がイ、色合に紅くなり來るときはソリヤコソ肺病の御見舞になつた初期の症状であります●性質の變調それから性質が大分カワッテ參ります何に

をするにも愉快なくイヤになり是迄好みたる遊び樂しみも少しも面白ろくなく何をしてもチキに身躰が疲かれ躰温は上ッたり下がッたり咳が出はじめ食物はまずく消化は惡しくなりて心臟はドキ〱して胸の部分に痛みを覺ゆる等は又たしかに初期の徴候と知りて早くよき醫者にかゝり醫治を加へて全治せしめられよ●記者の常に恐るゝは肺病ある婢僕、料理人、牛乳販賣人、パン燒、菓子製造者等直接に口用食品を取り扱ふものです坊間鬻ぐ處の菓子屋を御覽なさい煎餅を買ひに往きますと販賣人は先づ袋に怪しき呼氣を吹き入れ手づかみにて煎餅を入れる無造作よ若し其者肺病なりせばなんと危險ではありませんかコレは何にとか改良したいものです●夏の飲み物　此二三日は近來にないひどい暑さでございますが暑いと誰しも喉がかわきますがイクラ暑いからといふて氷ラム子の類を多く飲用することは大變に胃液の作用を鈍くしまして爲めに食物の消化が惡しくなります氷などでは呑めば呑む程喉がかわきまして腹がボコ〱してもマダ呑みたいといふ氣味合ひになるのですから一層煮立ちたる湯、湯さまし番茶上茶は多く飲みますと心臟がドキ〱して毒です尤もよい夏の飲料としては人によると香ひが變んだと申しますが麥湯、麥湯でしやうよく冷やして置きまして砂糖を少し入れて飲んだらコーヒーには劣りませんラム子の事を一寸申しますがラム子はクエン酸又は酒石酸に炭酸瓦斯を溶したるはまだよけれ市中のものは炭酸曹達に硫酸を加へたるもいと多く其品質の惡しきは胃を害することは氷よりも甚だしい位ひです中には腐敗して居るのもある此頃どこの田舍でも此ラム子は至る處にあり至る處ラム子でなければならぬ樣ですがコレハ充分の注意がなくて叶はぬことてす井の水泉水等生水は勿論危險ですが安全な

湯茶麥湯でも餘り澤山飲めば前に申した胃液のはたらきを害し食べ物がうまくなくなりますから成るたけ湯茶は多く飲まぬ方がよろしう御座います●人畜の壽命　人の全く發育せる時期は二十五年です是れに四なる係數を乘けますと其數百となる是れ即ち人畜の天然の壽命なりと伊太利王國人は假定して居りますが人體の發育は初生兒より大人となる身の丈けは大約三倍し體重は大凡十八倍なりといふ●小兒腦水腫　初生兒は此頃の强き暑さには中々堪へられませんから子を持てる方は成るべく家の內でも涼しき處に置きて子守などに負はせることなどは御注意になりませんと子守などは知らぬ間に炎天をノソ〱あるくもので實に危險なものです此炎暑の季節には少し腦の惡しき子供などは腦水腫を起し取りかへしの付かぬことになります此病ひは生れつきと生れて後ちに得るとの兩者あります生れつきのものは多く死んで生れます頭の大きい病ひで皆さん御存知で御座いましやう生れたる後になりまするのは外見上全く丈夫な子兒として生れ漸々に頭がふくれます又頭のふくれないで死ぬのもあります之を驗べて見ますと腦の中部に水液が溜りますのと腦の外面に水液がたまるのとあり升通常は腦の中部に溜る方が多くありまして夫れが爲めに腦が壓されて發育不完全となり又頭骨の成長を妨げまして甚だしき時は腦は紙の樣に薄くなりますいよ〱斯の病發生しますと五六歲迄育つことは稀れでありまして大概は早世しますたまに生長致しても白痴となりますから子供は常に腦に氣を付けてやるのか尤も緊心で御座います

●早婚の幣　キッシユ氏の統計によるに十五歲乃至十九歲にて嫁したる婦人にて結婚後十五ヶ月以內に第一兒を擧げたるものは百分中五十四人四分二十歲以上二十五歲以下にして同上のものは百分中六十七

人四分の割合なりと其他の統計によるも不姙症の多きは女子早婚の弊に基くといふ●海浴の適する人　海浴は第一皮膚の力をつよくするの效能あり皮膚の力つよくなるときは身躰の蒸發をさかんにし筋肉の力をつよめ感冒にかゝることと少きに至るべし腺病質即ち瘰癧の出來る人若しくは頭に瘡氣の出來る人色白くやせたる子供胎毒あるもの神經痛の人顏の半分痛む病氣の人、大病後癒りかかりたる人、婦人の常に充分月經なきもの等には海浴は効能あるものなり

●海浴の適せざる人　右に反して海浴の不適當なるものは小さき小供　御爺さん　御婆さん　身躰の弱過ぎる人　智覺過敏の人　子宮病ある人　レウマチス　痛風等で節々の痛む病　肝藏の病氣　小便嚢の中抔に石の出來る結石病　婦人の姙娠中等は海浴は不適當にして是等は海水温湯に入浴するを以てよろしとす但し手足の痛む人などは温浴にて習慣をつけ海の中にて少しボチヤ〳〵遣つて熱くなりたる砂の中にコロげるときは大に效能のあるものなり之を砂浴といふサレバ海水浴とても誰彼の差別なく適するものにあらざればよく醫師の差圖を受けて浴せらるゝことは尤も緊要の事なりとす●海浴の時間　海浴をなすには朝より晩まで這入りつゞけることは固より宜しからず適當なる時間は十分より十五分時にして又其海浴すべき時間は日中よりは朝晩を以てよろしとす空腹のとき餘り食物を喫したるとき酒を飲みたるとき身躰の非常に熱し汗つよき時は（俗に言ふコクラの返り易きものなればよく注意して身躰の冷ゆるを待ち海浴すべきなり）等は直ちに海浴を爲すべからず

中外彙報

本州東北海岸なる常陸國助川高萩の兩地は東は太平

洋に臨み砂白く波穏かにして空氣極めて爽凉にて西は山岳南に迫りて北風を遮り寒暖其中和を得て風光地勢共に他に多く得難き暖地なることを日本鐵道會社に於て發見したりといふ其氣候等を觀測して横濱大磯沼津の各地に比すれば季節の如何を問はず寒暖の差甚だ少なく夏時は東京沼津に比し溫度遙に低く夜に入るも猶同一の狀況にして稀には三十二度以上(華氏の九十度以上に)昇ることあるも其時間甚だ短かく忽ちまた清涼となるを以て溽暑の苦に惱むこと少し八月以後は溫度次第に下り九月は七月に似て十月は五月に類し十一月は四月に近く十二月は三月と寒暖の度を同うせりと

海水の溫度は空氣の溫度と大に其趣を異にし一月より三月までは助川、高萩は横濱より遙に溫暖にして其高溫の極度に達せしは空氣と同じく八月にして九月に至りては横濱の海溫は大に其度を低め該地方と略ぼ同一となる之を概言すれば寒暖の候は助川高萩共に横濱よりも高溫度なるも暖暑の候には横濱より低溫度となる濕度は助川高萩ともに略ぼ同一なるは九月より翌年三月迄の七ヶ月にして其他は助川は常に高萩より濕潤なり天氣は兩地とも晴天尤も多く曇天之に次き雨天又其次にして雪天は極めて少しと云へとも雪天は横濱沼津より遙かに多し晴天の尤も多きは八月及十二月にして此兩月は晴天七八分を占め之に次くは一月なり雨天の最も多きは九四兩月にして七月之に次ぐ要するに兩地は東京横濱等の各地より晴天多くして曇天少く雨天亦頗少なり風力は共に軟弱なれども高萩には時々強風ありといふ

探勝地　水戸驛の常磐公園　同驛より三里餘の大洗及東方四里餘の平磯海水浴、石神驛に村松虚空藏、下孫驛に河原子海水浴場、鮎川海水浴場、大久保の風穴磯原驛に天妃山、關本驛に平潟港、勿來驛に勿來

の開趾、湯本驛に湯本温泉、小名濱港、綴驛に高野鑛泉平澤に赤井嶽藥師久の濱驛に生姜ヶ岩寄岩、中村驛に相川浦、原釜海水浴等の勝地あり旅店は助川に松風館（一夜宿泊八十錢より一圓二十錢）高荻には高荻館あり何れも日本鐵道の便によりて往くを得べければ要するに助川の如き空氣寒暖の差なき地は氣管支病等には適地なるべし本誌口繪に掲載せしは即ち助川近傍の勝景なりとす

◉女子改良服に就て

日本女服の不完全を認めしは今に初まりしことにはあらざりしが今や機運の熟せしものと見へ世間一般に其必要を感ずるものゝ如く續々考案も出づるに至りしが可成多數の考案出でゝ其粹を抜き遂に完全なる改良服を得んこといと望ましけれ

ソも本會が去る明治三十二年五月女子高等師範學校に於て例會をひらきたる際ベルツ氏は三島醫學士の通譯により女子教育に就きて根本的に批評を加へ殊に日本女服の不完全なることを詳述せられしが（本誌第百十五號）今より考ふれば實に大演説なりき今日の改良服は何れも其基礎に於て氏の説を參酌せざるもの少なし余の知る處によれば此時代に於ては衣服改良の事は世間闃として聲なきが如くなりしがベルツ氏の絶叫は全く女服改良の導火線となりしものと云ふべし

其後下田女史の改良服を見受けしを覺ゆ次に本會に於ては宮本仲氏の小兒衣服改良談あり弘田博士には又去年十二月の例會に於て氏の考案にかゝる改良服を示して演説せられしが氏は漸を追ふて改良するにあらされば到底行はるべきにあらずとなし先づ外部の服裝よりは内部を輕快ならしめ運動に適せしむるにありき此間女服改良會は起り本會の濱尾、鳩山、高木諸氏にも大に盡力せられき（弘田氏講演本誌第

百三十六號）次に山根正次氏は洋行歸朝後直に洋行土産なる演題にて尤も小兒者に適する簡樸改良服を案出せられ（本誌第百三十八號）是より女服改良の熱度は日に益々盛となり讀賣新聞には梶田半古氏裁縫家なる渡邊辰五郎氏流行者懸賞の改良服等續々案出せらるゝに至りたり蓋し西洋服は多年研究したる者とてコルセットの害を除くに於ては總ての點に於て優るを覺ゆれとも直ちに之を應用するは經濟上總ての點に於て尤も至難なるとなれは目下の趨勢は和洋折衷の簡易なる衣服こそ尤も至當なりと云ふべし此頃女服改良を批難するものゝ如きは保守も又甚だしく抗議の價値なしと云ふべしされば前に述べしが如く今日は諸種の考案の澤山と出てゝ其萃を抜き完全なる服裝を設定せんこと尤も必要なりと云ふべし

●横井氏の改良服

此頃女子美術學校舍監なる横井玉子氏には又一種の折衷服を案出せられたりとて寄送せられたれば左に掲して諸氏の参考に資すべし

左に記せるものはその何れにも關係なく氏の新たに工夫せられたるものにて洋服と日本服との折衷なり十五六才の女子に着用せしむる目的にて工夫せられたるものなるが此頃女子美術學校生徒の望みにより實地に着用せしめられしが至て恰好もよく輕便なることは圖を見ても知らるゝ如く餘り手もかゝらず縫ひ直しも自由に出來簡易を旨としたるものにて肩筋の三ツヒダは是迄若年者の肩あげをなして成長なさば之をおろすの習慣に因み此ヒダを縫ひかへる時は又大きくもなる便利法と西洋服を少しく折衷したるものなり是れは女子美術學校の常服と定めしものにはあらず只望ものゝためし居る者にて尚よき考案もあらば追々改良する筈なりといふ

左圖は夏向きに尤も辨理なる中裁本裁にして用布は



洗張レイス
(イ)
(ロ)
(ハ)
(ニ)
(ホ)
後そで
後袖
身頭
ラビ
エリ
袴後
全後
全前
全前
総丈
大巾
壱丈四尺二寸
下ずぼん
下ぢゆばん
上ぢゆばん
レース
上ずぼん
紐ハテップ
上ばき
西洋ペテコの類


巾着ひだ
肩巾せまき方うつくしよきものなれど袖を附ける前に
かりぬひをなし 本人の肩巾に志たがひそぐ付の処洋
服にならひ切とるべし
此処カクシ
第一
後袖
前袖
袖方二た通
袖
第二
金物
(一)
前
(二)
此裏ホークにて
とめ「リボン」を
花ニ結び長き
留針にてかざる
前
身
ヒダ
後
頭
金巾ヒダの上ニ絹糸にてつゞくり又ハ
チドリガケのかざりを付るもよし
縫とり
或ハリボン
長帯

大巾一丈四五尺、小巾物三丈あまり一反ものにても出來得るなり肩巾はせまき方かつこうよきものなれば袖付けの前にかゝり縫ひをなし本人の肩巾にしたがひ袖付の處洋服にならひ切おとすをよしとす下衣の袴は他の布になし上衣のみ時期に取かへ着用するもよし夏は浴衣地一反にて冬期に至れば下ヅぼん抔フランネルなと用ゆべしとなり

尚裁縫等の不明なる點もあらば申し越さるべし本會は說明の勞を厭はさるべし

●殖民大臣と其夫人　英國のチヤンバレーン氏は步行を嫌ひ馬車自轉車をも好まず玉突テニス等の遊技もなさず只日々繁雜の事務を處理し能く其職に堪ふるは內にありて夫人の忠告及び注意の力大なりとの事なるが或日同夫人は役所に至り良人の辨當を檢査し尙料理場をも調査せし後「每日斯る辨當にては病氣に成るゆゑ必らず自宅にて午餐を喫べ給へ」と告げしに氏は夫人の言に從ひ今は每日家に歸り中食する樣になり傍ら運動ともなりて夫人の衞生に注意することは至れりといふべし

●鷄卵保存法　昨年六月獨逸國伯林に於て鷄卵保存法に關する實驗に着手し本年二月に至りて之が結果を調査したるに鹹水に入れ置きたるものは全く腐敗し紙に包みたるもの、サリシル酸及びグリスリンの液に蓄へたるものは八割鹽を塗りたるものは七割腐敗し其他の各方法に依るもの何れも多少の腐敗を來さゞる無りしが只ワセリンを以て塗ひたるもの石灰水中に蓄へたるもの及び硅酸曹達溶液中に蓄へたるものゝみ一個の腐敗だも無かりしよし夏季鷄卵の腐敗し易き折柄實驗せらるべし

●學位授與式　論文提出總長推選により醫學博士の稱號を得られたる人々左の如し

論文提出　藤浪鑑　仝三宅速　仝三輪德寬　仝桐淵鐵次　仝岡村龍彥　仝金杉英五郎　仝上阪熊勝　仝淺川範彥　京都大學總長推選　笠原

光興　今者杉文太郎の諸氏なり

●出產死亡婚姻離婚數　一昨年中の全國（臺灣を除く）に於て出產死亡婚姻離婚數左の如し

出生男	七〇六、〇〇一人	死亡男	四七四、一七〇、	生存男	二三〇、八九九人
出生女	六六六、〇〇一	死亡女	四四五、三七九	生存女	二二二、二〇二
合計	一、三七二、〇〇二		九一六、九六九		四五〇、四〇九
婚姻件數	一九七、七一七	離婚數	八六、六四七		

●韓國及北淸の狂犬病

韓國及び淸國北部には本春來狂犬病流行し居る由なるも兎角衞生統計の不備なる國柄の事とて之が人類に及ぼしたる影響に至りては未だ確實の調査を得ざりしが去る五月韓國駐剳露國公使バヴッローヴ氏及び韓國政府の學校に在る露語教師（露國人）ビルコッフ氏外に同公使館附コサック兵一名公使の從僕支那人一名は倶に狂犬に咬傷せられたるを以て其未だ毒の芽を發せざるに先ち豫防注射を受けん爲め態々本邦に來り芝愛宕町なる傳染病研究所に於て治療を受けたるが其後の經過至極良好にして一の異狀なく此程に至り全く治癒したるを以て一片の謝狀を所長北里博士に送り來れりとなり又去月下旬旅順駐屯露國陸軍士官の家族（何れも小兒なり）三名も狂犬の爲め咬傷を受け傳染病研究所に入り治療を受けたるが何れも經過良好なるを以て此程退院し旅順に向け出發したり以上は僅かに本邦に來りて治療を受けたるもののみなるが猶此外に於て多くの狂犬病に咬傷せられ死亡若くは重患に陷りたるもの少からずとなり

●鷄卵中のヂストマ

警視廳の岡崎警察醫は先般支那朝鮮地方より輸入せる鷄卵中に蛭虫（ヂストマ）の棲息するを發見し牛後園江警察醫は熱心之れが研究に從事し飴屋等に依賴して鷄卵の殼を貰受け頻りに鏡檢的試驗を行ひしに蛭虫を發見せしもの尠からず能く煮沸して用ゆれば敢て害なきも其儘食用に供すれば頗る危險にして

該虫の人體に入りて害を爲すとは岡山及び九州地方に其例往々あり大に研究を要すべきものなりしと山根警察署は語る

●飲食物取締と罰則

警視廳に於ては、去る廿九年五月警察令第六號、即ち蠅類の飲食物に黏集するは、飲食物を不潔ならしむるのみならず、往々傳染病毒傳播の媒介となる虞あるに付、店舗に露陳し、又は行商する飲食物にして、其儘食用すべき者には、適宜の覆蓋を設けしむることとせしも、是迄別に該令に制裁を附せざりしが爲め、勢ひ其違犯者多々あるも嚴重に該規定を施行すること能はざるに付、昨日該令に違背したる者には刑法第四百二十六條第四號に依り、拘留又は科料に處する旨の一項を追加發表したり

●肺病治療法

英國にては肺病撲滅協會なるものを設けて專ら肺病の全滅方法を講じつゝあるがその療治の方法として決定せられたるは空氣療養を主とせる養生院の設立にあり而して目下一般に肺病はその初期に療養を怠らざれば決して之を不治の病と認めず且その治療の方法は從來の如く徒らに外部より藥を施すを以て不可とし新鮮なる空氣を十分に供給するに若かずと信ずるもの多し尤も右の說は既に各國にて採用せる處なりしが英國に於ては此頃漸く之を唱ふるに至りしなり殊に獨乙に於ては貧民間の此病に罹れる者を救はんが爲め盛に養生院の設立を奬勵せり尤も獨乙にて養生院の盛なるは昨年通過せし病弱者保險法の存するが爲めにして今該法に依れば一年百磅に達せざる收入を以て生活する職工は十六歲より國家と保險契約を締結する義務あり而して國家は此保險契約に基きてその被保險者中に病に罹るものあれば直に之を養生院に收容するの義務ありといふ此貧民救助

法の從來の經驗上非常の效果を收め且肺病患者の爲めには唯一の治療所なれば英國にても之に倣ひたるなりといふ

●兒童博覽會　佛國文部大臣ライグ——氏は此程巴里市に於て兒童博覽會を開設し衆人の觀覽に供したりしが其陳列品は兒童の發育、衛生及び教育に關する總ての器具、玩具、繪畫等にして分類は科學的及び時代的に區別し殊に諸名士の幼年時代の肖像畫を揭げて一層の興味を添へたる由

●自殺者の統計　世界各國に於ける最近三十年間の自殺者を人口百萬に對する一年平均にて算すれば左の如しと

獨逸	三三三	白耳義	一〇五	丁抹	二五九
瑞典	一〇四	佛蘭西	一三九	英國	七八
普魯西	一二二	諾威	六七	米國	二八

●市府雜俎　第二回捕鼠懸賞既報の如く來る十日より執行せらるゝ、第二回捕鼠懸賞は、昨日市の公文を以て告示せられたり、其大要左の如し

一時停止中なりし捕鼠懸賞は左の方法により引續き懸賞を實行す

一、賞與金は左の五等に別ち、四百七十個とす

一等　五十圓　八個
二等　二十圓　八個
三等　十圓　八個
四等　五圓　四十八個
五等　一圓　四百個

二、賞與金は鼠差出人に懸賞券を交附し置き、抽籤施行の際、抽籤したる番號の懸賞券を所持する者を當籤として之を給す

三、懸賞券は、鼠一頭に一枚を交附する事

四、懸賞券には番號を記し、東京市ペスト豫防事務所の公印、且つ取扱主任の記名捺印を押捺する者とす

五、抽籤實行期は鼠約二十萬に達したる時に行ふ

●第一回捕鼠懸賞抽籤執行　十日午前八時市會議事堂内に執行する同抽籤の立會人は市長助役參事會員各區長衛生常務委員東京府警視廳主任官等にて一般公衆にも觀覽を許す抽籤器は勸業債券抽籤器に倣ひたる幅三尺丈六尺位の圓形回轉器二個にして一組に十万宛の抽籤木札を容れ器械の回轉により能く混淆せしめ左右兩側の口より抽籤する筈にて九日午後之

れが試驗を行ひたり

●電話の消毒　近來電話の利用盛なるより其電話口より肺病を傳染するの事實は疑ふ可らず公衆衛生上默過す可らざるものなれば其筋に於て電話使用者は相當の消毒法を勵行せしむると猶理髮店に於る如くならば大に安心を與ふるならむと云ふ

●東京の傳染病　警視廳の昨日の取調に依れば本年初發以來發生せる傳染病の總數は市郡合計千六百七十六人內市部千三百二十一人、郡部三百五十五人にて昨年の今日に比べては多少減少したるも赤痢腸窒扶斯の兩患者は稍々增加し昨今少くとも二三十名の新患者續發の模樣なりと

●全國の赤痢病　昨日衛生局の調査によれば去る一月初發以來全國各府縣に發生せし赤痢病患者の數は六千〇六十四人、內死亡一千六人にて昨今益々猖獗の傾向を呈せしが就中盛なるは神奈川縣の患者初發以來五百九十一名、群馬五百八十九名、新潟四百四十四名、愛知四百四十名、山梨三百五十三名、靜岡三百四十一名にして其他百名より二百名以內發生の地方は長崎、岐阜、長野、宮城、福島、岡山、愛媛等の各地方なりされば來る十月中旬迄に其豫防消毒法宜しきを得ざる時は少くとも七八萬以上の同患者を見るならんと

●厠改造勵行　警視廳に於ては惡疫豫防の爲管內各警察署長に命じ地主、家作主、差配人等を夫々召喚せしめ厠改造に關し是迄度々注意を與へしも多數の家主は未だ其改良を爲さゞる者往々これ有る趣きに付き今や各種傳染病發生の時季に際せしを以て此際其改造を勵行する方針なりと云ふ

●紀伊家の衛生談話會　麻布飯倉德川家（紀州家）にては令息賴倫氏の發起にて一昨日午後七時より同邸に各親族方及近隣居住者を招待し并に長家居住者

を呼立て衞生談話會を催し杉澤某氏は好意に依りて說明し山根警察署長も同會に聽せられ一場の演說を爲し午後十一時半散會せし由なるが一個人の衞生談話會は之が嚆矢なり他の大家に續々此擧あらんことを望む

●水菓子屋すし屋等へ諭達　小石川警察署にては昨日午前十時頃管内の水菓子屋すし屋等の營業者四十餘名を召喚し極暑の季節なれば蠅の如き不潔物媒介の動物をして食物に付着せしめぬ樣凡て飲食物には必らず蓋被を怠るべからざる旨懇々諭達せり此頃ラムネ蜜柑水等の屢々棄却せられし飲料物檢査厲行せり



大日本婦人衞生會記事

前會長仁禮壽賀氏は多年本會々長の任を負はれ其効績少からず本會は聊か謝意を表せん爲め今回純金製紀念章を調製し去月濱尾副會長高木幹事の手を經て送呈せられたり

仁禮前會長よりは左の通申越されたり全文左の如し

拜啓昨日廿日濱尾副會長殿高木幹事殿御入來不肖會長の職を汚し一の効績も無之處御鄭嚀なる挨拶殊に結構なる紀念章御附與に預り難有拜受致候右會員各位へ御禮申上候敬具

七月廿三日　仁禮壽賀子

大日本婦人衞生會御中

○本月は例により暑中の故を以て例會は休會致し候

弔詞

通常會員麴町區河村君子には去月病氣の爲め死亡せられたり

本會は謹みて哀悼の意を表す

◉本會入會者

○淺草　鳥居貞子紹介
●麹町區三番町八十番地佐々木政一郎方　通常會員　渡邊かね子
●淺草區猿若町一丁目十二番地　通常會員　福島こと子
○本郷下瀬勝千代子紹介
●牛込區納戸町二十二番地原方　通常會員　齋藤澤子
○事務所申込
●周防國熊毛郡大野村字岡田　賛成員　福光高之進君
●神田區五軒町十九番地　特別會員　野上八重子
●淺草區田町一丁目七十六番地上山方　通常會員　高橋のぶ子
●愛知縣尾張國葉栗郡淺井町大字東淺井　通常會員　森　策子
●岩手縣陸中國稗貫郡花卷川口町五五三　通常會員　高橋只志子
○日本橋　樋口八重子紹介
●本所區緑町二丁目二十三公園第九號　通常會員　鈴木ます子
○本郷　大久保兇子紹介
●本郷區湯島五丁目十番地順天堂病院　通常會員　後藤米子
●日本橋區高砂町十四番地　通常會員　松平つね子
○本郷　双木せう子紹介
●第一病院內　通常會員　柳木もと子

○本郷　森きい子紹介
●本郷區本郷五丁目二十七番地　通常會員　庭田靜子
○麻布　淺井梅子紹介
●赤坂區青山北町四丁目七十一番地小兒科醫士　賛成員　秋山七郎君
○深川　堀越みつ子紹介
●深川區入船町四番地　通常會員　加瀨しま子
○芝區　山田そよ子紹介
●芝區榮町八番地　通常會員　伊藤俊子
●相州中郡秦野町大通　通常會員　佐藤さと子
○淺草　門井愛子紹介
●淺草區須賀町二明治病院　通常會員　石井久子
○本郷　大久保兇子紹介
●千葉縣上總國君津郡木更津北町千三百四十一　通常會員　山田千代子
●本郷湯島五丁目順天堂病院內　通常會員　宮島喜代子
○麹町　遠藤よし子紹介
神戶市東川崎町二丁目十七番地　通常會員　松元信子
○事務所申込
●神戶市海岸通一ノ五五一栗林方　賛成員　清田孫太郎君
○幹事　岡田德子紹介
麹町區中六番町三十九番地　特別會員　中村禮子
○下谷　三和靜子紹介

●淺草區聖天町六十一番地多田益子方　通常會員　多田益子

◉新潟支會

○會長　小柴きく子紹介

●上旭町　特別會員　安藝からの子

○幹事　松野なほ子紹介

●下旭町　特別會員　山下かう子

●學校町二番町　通常會員　松井ふで子

○幹事　稻津しん子紹介

●上旭町　特別會員　保倉ちよ子

○評議員　長谷川せん子紹介

●學校町二番町　特別會員　柏倉ひろ子

○評議員　都築すが子紹介

●古町七番町　通常會員　齋藤きく子

○幹事　河上ふさ子紹介

●西蒲原郡石瀬村　通常會員　本間なか子

◉山形支會

○幹事　北島もと子紹介

●山形市　通常會員　郷津とみ枝子

○幹事　沖野りう子紹介

●山形市　特別會員　堀志賀子

○堀志賀子紹介

●山形市　特別會員　柴崎けん子

轉居

會員諸氏御轉居の際は乍御手數本務所宛必ず御一報相願候

●神戸市葺合町字熊内二千八十九へ　勝田久米子

●愛媛縣越智郡今治町米屋町へ　矢野德代子

●甲府市錦町乙黑直方へ　西村とし子

●臺南市關帝廟街四番戸岡田幸方へ　鳥居貞子

●本郷區元町二丁目三十九番地へ　古川節子

●芝區白金今里町十三番地へ　岸美與子

●小石川區原町百二十九番地磯部方へ磯部改　宮崎よし子

●山口縣豐浦郡宋野村字大河村二六九へ　市川たか子

●本郷區彌生町三番地へ　細木とみ子

●荏原郡目黑村大字上目黑二九八へ　西郷清子

●牛込區鷹匠町五十三番地へ　三好うめ子

●名古屋市西新町榮町筋南へ入東側へ　三宅鶴子

●下谷區上根岸六十六番地へ　櫻井和歌子

●府下小松川警察署長官舍へ　小濱るい子

●京橋區南鍋町一番地へ　橋木くら子

●麴町區中六番町四十六番地崎元方へ　川添香代子

●下谷區谷中天王寺前町八十三番地へ　志岐久子
●牛込區加賀町一丁目三十番地へ　和田垣つな子
●赤坂區谷町六番地へ　清岡かく子
●信州松本町三千五番地へ　武野つる子
●神田區淡路町一丁目二番地鈴木總三郎氏方へ　大橋榮子
●麴町區飯田町一丁目八番地新田みき子方へ　雛田ふん子
●廣島市上手町二十五番屋敷へ　荒井たか子
●麴町區一番町十二番地へ　山口静子

今般左の諸氏改姓せられたり
磯部改　宮崎よし子
柳川改　原田[illegible]礎子

●交換寄贈雑誌（七月分）

●日本婦人　第二十一號　東京帝國婦人協會
●日本赤十字　第百號　東京日本赤十字發行所
●統計學雑誌　第百八十三號　東京統計學社
●統計集誌　第二百四十四號　東京統計協會
●中外薬報（第四十六號 第四十七號）　東京中外薬報社
●倫理界　第三號　東京開發社
●をんな　第七號　大日本女學會
●看護婦人矯風會雑誌　第十六號　大日本看護婦人矯風會
●ふらう報　共益通信株式會社
●大日本婦人教育會雑誌　第百三十六號　大日本婦人教育會
●婦友　第二巻第十號　東京婦友協會
●通俗衛生　第三十六號　大阪私立衛生會
●薬石新報（第百九十六號 第百九十七號 第百九十八號）　大阪薬石新報社
●薬學雑誌　第二百二十三號　東京日本薬學會
●婦人新報　第百十一號　東京婦人矯風會
●女學講義（第六十三號 第六十四號）　時事評論社
●婦人と子ども　第一巻第七號　フレーベル會
●日本醫學會雑誌　第百七十一號　東京同愛醫學會
●工業雑誌（第十九巻ノ二百三十三號 第十九巻ノ二百三十四號）　東京工業雑誌社
●あけぼの　第二號　東京あけぼの會
●産科婦人科學雑誌　第三巻第七號　東京日本産科婦人學會
●産婆學雑誌　第十九號　日本産婆看護協會
●山陽新報　山陽新報社
●常葉新聞（第二百三十三號 第二百三十四號）　常葉新聞社
●教育實驗界（第八巻ノ一號 第八巻ノ二號）　東京育成會
●淑女　第二巻第七號　東京淑女社
●越佐教育雑誌　第百三號　越佐教育會雑誌社
●衛生寶鑑　第五十二號　愛知談善會
●廣島衛生醫事月報　第三十一號　廣島衛生醫事月報社
●光之園　第二號　東京以文會

東京帝國大學醫科大學附屬醫院案内

東京醫科大學附屬醫院は本郷元富士町にあり會員の便を圖り左に構内の略圖及診察時間等を掲ぐ（詳細は本誌第百三十四號に掲出せり）



第一醫院外來患者診察日割

初めて診察を受けに行くもの

内科（新來）
三浦教授　水金　午前九時ヨリ
入澤助教授　火土　仝
橋本助教授　月木　五
再來（二度目以上診察を受けに往くもの）
助手　火木土仝

外科（新來）
ドクトルスクリバ　水　金　午前十時より三十人
近藤教授　火木土　午前九時より二十五人
再來
助手　月水金　午前九時より

眼科（新來）
河本教授　月火水木金土　午前八時より
再來
河本教授　月火水木金土　仝上
助手

婦人科（新來）
木下教授　火木土　午前九時より
再來
木下教授　火木土　仝上
助手

小兒科（新來）
弘田教授　月水金　午前十時より
再來
弘田教授　火木金　午前九時より
助手

皮膚病科（新來）
土肥教授　月水金　午前九時より
再來
土肥教授　月水金　仝上
助手

耳鼻咽喉科（新來）
岡田教授　月水金　午前九時より
再來
岡田教授　火木土　仝上
助手

脚氣病科
新來再來とも
助手　火木金　仝上

但大祭祝日及急病患者は此限にあらず

病室來訪時間（午後一時より仝五時迄）

外科及事務用　電話（本局四百四十六番）
内科婦人科小兒科　電話（本局四百四十四番）

第二醫院診察日割

第二醫院燒失後は第一醫院外科の一部に於て診察する元の如し

内科（新來）
青山教授　火木
入澤助教授　月
橋本助教授　水土
助手　金
新來
佐藤教授　火木土
助手　月水金

眼科（新來）
甲野助教授　火木土

入院料
一等　一日金參圓
二等　一日金貳圓
三等　一日金壹圓

但特別に附添看護婦を使役するものは別に其傭使料を納めしむ

尚私費患者入院心得は本誌第百三十九號官費入院患者心得等は本誌第百四十號を一覧せらるべし

大日本婦人聯合會機關

婦女新聞

毎週月曜（定價）

一部金三錢▲一ヶ月十二錢▲三ヶ月三十七錢▲六ヶ月七十二錢▲一年一圓三十五錢▲全國無遞送料▲郵劵代用一割增一ヶ月以內の注文は謝絕す

讀め!!! 時勢に後れざらんと欲する婦人

文字は淸潔にして平易なり
趣味は高尙にして多方面也
報道は精確にして親切なり

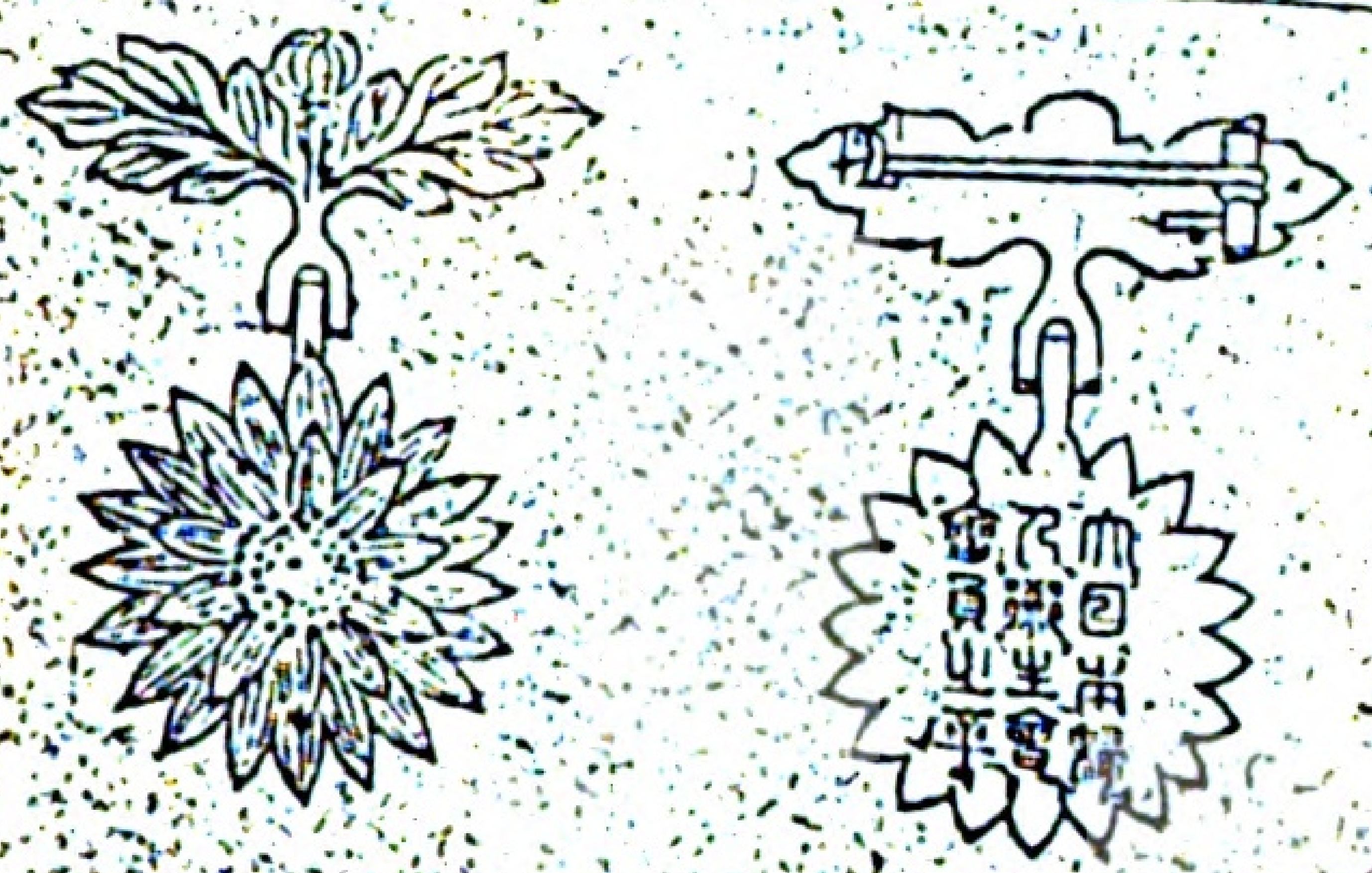
本邦唯一の婦人專門新聞紙
純潔なる家庭最好のよみ物
婦人會女學校に必要の機關

見よ!!! 廿世紀婦人の聲を聞かんと願ふ人

發行所 東京市神田區小川町四十一番地 婦女新聞社

賣捌所 神田表神保町東京堂▲京橋鎗屋町北隆館▲京橋鎗屋町東海信文合資會社其他重なる雜誌店

大日本婦人衛生會廣告



一本會從來の會員分は粗末なるもの故隨て遺失汚損し易きため先般來上圖の如き本會徽章を調製し御申込の諸氏へ頒つ尚御入用の御方は事務所へ御申込あれ

一本徽章は禮裝用に製せるを以て集會の際は勿論成るべく平素御用ゐ被下度左すれば自然本會の廣く江湖に知れ渡り普及の一端と可相成候

一本徽章は通常會員號第一號メッキ製一個十五錢●同第二號赤銅製一個五十錢●終身及び特別會員號(第三號)一個一圓外に一號及二號送料六錢三號送料九錢

明治卅四年七月　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス

第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク
會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス
各役員ノ任期ハ一ヶ年トス

第參條　毎月壹回(第四日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス

第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ
本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨ヲ事務所ニ届出ツベシ

第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ
會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二ヶ月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ

第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ設キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス

第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ聽聞セシムベシ

第八條　服裝ハ清潔質素ナルヲ要ス
上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ

第九條　特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ適用ス

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

事務所宇都宮市西塙田町浅田方

私立大日本婦人衛生會
新潟支會規則

第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり
第二條 當支會の會費は左の六種とす
終身會員 一時限り出金貳拾圓
特別會員 毎月 金參拾錢
通常會員 仝 金貳拾錢
甲毎月 金拾錢
支會員 乙仝 金五錢
第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし
第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す
第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす
第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす
第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし
第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す
第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし
第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし
第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす
第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし
第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

新潟支會

事務所新潟市旭町一番町十番戸河上フサ子方

私立大日本婦人衛生會
山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す
第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
役員の任期は一ヶ年とす
第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰舉庶務會計の報告をなす
第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし
第五條 本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし
第六條 服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

[illegible]第三種郵便物認可（[illegible]內務省許可）

大日本婦人衛生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

一 會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には黄菊若くは白菊の會員章を交付す

一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子賛成員亦同じ

一 男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一 會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす

但每會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得（勤めて衣服は質素たるべきこと）

一 講義演說等は男子の傍聽を禁す但賛成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絶することあるべし

ノ

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

新入會の際　御入會の注意

新入會の際は三ヶ月以上の會費と相當徽章代通常會員章（銀メツキ製拾五錢）又は（正銀五十錢）終身及特別會員は銀鍍金章（金一圓）を添へ**必らず前納**にて申込まるへし然らざれば雜誌發送致し兼候但し東京府下に限り每月會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也

追て支會々員は支會へ會費納めらるべきことゝす

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又通運便何にても差支なし

一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料	
一行	十錢
一頁	參圓
總て前金	

本誌定價一部廿錢　每月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戸上義章
印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場